

昇曙夢 著作年譜（稿）〔Ⅱ〕

長谷部 宗吉 編

〔編者覚書〕

昇曙夢著作年譜（稿）〔Ⅱ〕

〔編者覚書〕

1. 昇曙夢著作年譜（稿）〔Ⅱ〕は、大正2（1913）年から昭和元（1926）年の大正期を収録対象としている。昭和期以降については順次発表を進めてゆく予定である。
2. 排列などの凡例については「昇曙夢著作年譜（稿）〔Ⅰ〕」（札幌大学女子短期大学部紀要 No.51 2008年3月）の〔編者覚書〕を参照していただきたい。
3. 〔Ⅰ〕の補遺については、（補遺Ⅰ）の形で〔Ⅱ〕のはじめに載せた。
4. 昇曙夢の著作（単行書）の大半は雑誌、新聞などに発表した論文・訳文をもとに作られている。初出タイトルの変更、内容の追加・修正などが行われている。そのために初出などは十分に把握できておらず、判明したもののみ注記した。ご了解いただきたい。
5. 大正期はロシア革命などもあり、その前後の昇曙夢の仕事量は膨大である。とてもその全容を把握することは困難である。抜け落ちているもの、また誤りなども多々あると思われるのでご教示いただければ幸いである。
6. 和田芳英氏からは貴重な情報をお教えいただいた。また、今回も札幌大学図書館には多大なご協力をいただいた。記して謝意を表したい。

昇曙夢 著作年譜（稿）〔Ⅱ〕

（補遺Ⅰ）「故ニコライ師の一生」

大阪朝日新聞附録 10783号, 2 (1912.2.25)

（注）執筆者名は無いが、『人生と宗教』（生前、曙夢が出版を意図したが未刊）の原稿を拝見するとこの記事に自ら「昇曙夢」と署名していることからここに採録した。

大正2（1913）年

（訳）「譯詩二篇—ウワレーリイ・ブリューソフより」

劇と詩 28号, 104-105 (1913.1.1)

* 「詩人としての黒山國王（上）（文藝）」

時事新報 10531号, (1913.1.1)

（談）「南の島」 秀才文壇 13巻1号, 97-107 (1913.1.1)

* 「ロシヤ文壇の現在（附録 最近歐洲文學概観）」

早稻田文學（第二次）86号, 1-16 (1913.1.1)

* 「詩人としての黒山國王（下）（文藝）」

時事新報 10533号, (1913.1.3)

* 「昨年 of 藝術界に於いて（三）」[アンケート]

讀賣新聞（朝）12811号, 5 (1913.1.3)

* 「露國文壇近事（一）（文藝）」

時事新報 10556号, 15 (1913.1.26)

* 「露國文壇近事（二）（文藝）」

時事新報 10557号, 1 (1913.1.27)

* 「露國文壇近事（三）（文藝）」

時事新報 10558号, 1 (1913.1.28)

* 「露國文壇近事（四）（文藝）」

時事新報 10559号, 1 (1913.1.29)

* 「露國新進作家の近業」

劇と詩 29号, 24-29 (1913.2.1)

内容：トルストイの『跛者の公爵』、ドワイモフの『心の疲勞』、
クーベルニク女史の『愛情物語』

- * 「偶像の破壊－アルツイバァセフの近業」

新潮 18巻2号, 34-37 (1913.2.1)

- * 「アンドレーエフの新曲二篇」

劇と詩 30号, 68-74 (1913.3.1)

内容：『エカテリーナ・イワアノウナ』、『ストーリーワイン教授』
(注) ストリーツインの誤り。

- (訳) 「偶然－トルストイ伯の遺著より」

新潮 18巻3号, 66-73 (1913.3.1)

のち、「偶然の罪」と改題し、「正教時報」2巻7号 (1913.4.5) に再録。

- (訳) 「生の退屈」ゴーリキイ作

新日本 3巻4号, 178-192 (1913.4.1)

のち、「退屈まぎれ」と改題し、『露西亞現代文豪傑作集 第四編
ゴーリキイ傑作集』(東京 大倉書店 1921.2.20) などに収録。

- * 「劇作家としてのチエホーフ」

聖盃 2巻3号, 99-110 (1913.4.1)

- * 「クウプリンの『泥沼』」

モザイク 2巻4号, 78-82 (1913.4.1)

- (訳) 「獣の呪ひ」アンドレーエフ作

早稲田文學 (第二次) 89号, 184-238 (1913.4.1)

のち、『心の扉』(東京 海外文藝社 1913.6.5) に収録

- (訳) 「偶然の罪」 正教時報 2巻7号, 26-32 (1913.4.5)

(注) 卷末に「(トルストイの遺著より)」とあり。のち「偶然」と改題、一部変更して「トルストイ研究」2巻5号 (1917.5.1) に再録。

- * 「ブリューソフの近業 (上) (文藝)」

時事新報 10626号, 15 (1913.4.6)

- * 「ブリューソフの近業 (中) (文藝)」

時事新報 10627号, 1 (1913.4.7)

- * 「ブリューソフの近業（下）（文藝）」
時事新報 10628号, 1 (1913.4.8)
- * 「露西亞の革命婦人」趣味 7年3号, 13-15 (1913.4.28)
- * 「目的地は露西亞（何処へ行く？）」[アンケート]
新潮 18巻5号, 41-42 (1913.5.1)
- * 「配所のゴオリキイ（一）」
讀賣新聞（朝）12931号, 5 (1913.5.3)
- * 「配所のゴオリキイ（二）」
讀賣新聞（朝）12934号, 5 (1913.5.6)
- * 「配所のゴオリキイ（三）」
讀賣新聞（朝）12935号, 5 (1913.5.7)
- * 「配所のゴオリキイ（四・完）」
讀賣新聞（朝）12936号, 5 (1913.5.8)
- * 「露西亞文學の倫理的要素」昇直隆著
正教時報 2巻10号, 26-31 (1913.5.20)
- * 「露西亞文學に表れたる高等遊民（附録）」
劇と詩 33号, 5-9 (1913.6.1)
- (訳) 「シレネの香」フヨードル・ソログーブ作
新潮 18巻6号, 69-85 (1913.6.1)
のち、「白いお母様」のタイトルで『死の勝利 序詞及び三幕』（パ
ンテオン叢書）（金櫻堂 1914.10.7）などに収録。
- * 「ザイツェフの藝術「心の扉」序文（日曜附録）」
讀賣新聞（朝）12960号, 7 (1913.6.1)
（注）これは副題にある通り、次に掲げる『心の扉』（東京 海外文藝
社 1913.6.5）との同一序文である。
- (訳) 『心の扉』（海外文藝叢書 第二篇）ザイツェフ作 東京 海外文藝社
1913.6.5 4, 1, 202p 15 cm 奥付の譯者表示：昇直隆
内容：序（昇曙夢著 pp.1-4）、目次（p.1）、姉（ボリス・ザイツェフ
作 pp.3-24）、客（ボリス・ザイツェフ作 pp.25-49）、狼（ボリス・ザ
イツェフ作 pp.51-69）、獣の呪ひ（レオニード・アンドレーエフ作

pp.71-202)

- * 「露西亞文學の悲劇的要素」昇直隆著
正教時報 2巻12号, 24-27 (1913.6.20)
- (未見) 「ソログープの新戯曲「生の人質」」
新文林 (大正2年6月15日～7月12日)
(注) 早稻田文學 (第二次) 93号の「新聞雜誌文學一覽」(自六月十五日至七月十二日) に記載されているが所蔵館不明のため未見。
- (談) 「露國の青年と其の國民性」
中學世界 16巻9号, 138-145 (1913.7.1)
- * 「詩人バリモント論」モザイク 2巻7号, 86-92 (1913.7.1)
- * 「都會詩人ブロックを論ず」
六合雜誌 390号, 27-35 (1913.7.1)
- (訳) 「譯詩二篇」 創作 3巻1号, 8-9 (1913.8.1)
(注) 巻号表示は4巻1号 復活號とあり、誤表記か。
内容：一、何うして私はお前を迎へたか (セルゲイ・ゴロデツキイ作) 二、自由 (セルゲイ・ゴロデツキイ作)
- (訳) 「犬」ソログープ作 文章世界 8巻10号, 96-106 (1913.8.1)
のち、「白い犬」のタイトルで『死の勝利 序詞及び三幕』(金櫻堂 1914.10.7) などに収録。
- (談) 「露國詩壇に於ける新思潮」
詩歌 3巻9号, 14-17 (1913.9.1)
- (訳) 「譯詩二篇」 詩歌 3巻9号, 31-34 (1913.9.1)
内容：『何故?』(バリモント)、SILENTIUM. (チュツチエフ)
- * 「一種の象徴的藝術。音樂として味ふべく曲の形式が餘りに單調。内容の表現に工夫を凝す餘地があらう (二百號記念催能について三、完)」[アンケート]
ホトトギス 16巻11号 (205号), 51 (1913.9.1)
- * 「『罪と罰』の研究」 早稻田文學 (第二次) 94号, 2-21 (1913.9.1)
内容：一、内田氏の翻譯 二、ラスコリニコフの生活 三、ラスコリニコフの思想 四、兇行の準備 五、ラスコリニコフの思想の誤

謬 六、犯罪の結果 七、ラスコリニコフの性格 八、ソーニャ・マルメラドワ 九、本篇の根本觀念

* 「思ひ出づるまゝ（瀬戸内海風景論）」

太陽 19 卷 12 号, 97-100 (1913.9.3 訂正再版)

(編訳) 「露國皇室と正教（正教國王としての露國皇帝）」 S N 生

正教時報 2 卷 17 号, 22-36 (1913.9.5)

卷頭から：「此の春ロマノフ家即位三百年祭の祝典が行はれた時露國のエルチャニーフ教授は『ニコライ・アレキサンドルウィチ皇帝（現皇帝）の治世』と題する面白い書物を公にした。（中略）今其中で特に我々の興味を惹いた箇所だけを譯出して讀者諸君の清覽に供する。（後略）」

内容：露帝の御平生、露帝と御家族、露帝の御信心、露帝と農民のち、「新日本」4 卷 12 号 (1914.10.1) にも掲載。

のち、一部内容を変えて『露國及露國民』（東京 銀座書房 1915.6.1）に収録

* 「露西亞演劇の特質」新潮 19 卷 4 号, 21-26 (1913.10.1)

(訳) 「薄暗い遠方へ」アンドレーエフ作

文章世界 8 卷 12 号, 57-83 (1913.10.1)

のち、『深淵 他』（創元社 1952.2.20）に収録

(訳) 「歡喜」チエーホフ作

第三帝國 1 号, 9 (1913.10.10)

* 「今日の民族問題—「新日本」より九十二名士に求めたる民族問題に関する質問三ヶ條」新日本 3 卷 11 号, 104 (1913.10.15)

* 「ロシヤ文學に現はれたる民族性」

新日本 3 卷 11 号, 345-352 (1913.10.15)

* 「「屈辱」の梗概」新潮 19 卷 5 号, 104-105 (1913.11.1)

* 「沈黙の宗教」六合雜誌 33 卷 11 号 (394 号), 11-15 (1913.11.1)

* 「希伯來文學の研究（上）」昇直隆著

正教時報 2 卷 21 号, 12-19 (1913.11.5)

(注) 卷頭に「(佛國ウキグルウ教授の研究に據る)」とあり。

内容：一、緒論 二、希伯來文學と用語の特質 三、希伯來詩歌の特質 四、希伯來文學に於ける並行體 五、並行體識別の困難 六、並行體の定義

(講演) 「露西亞に於ける文藝と實生活」(村上靜人編『自由講座叢書 第一編』
東京 自由講座發行所 1913.11.10 所収 pp.1-56)

* 「メレジュコーフスキの作物に現はれたる靈肉一致の思想」

第三帝國 2号,8 (1913.11.10)

のち、『第三帝國の思想』(東京 益進會 1915.2.22)に収録。

* 「ゴオリキイの昨今—「一時危篤を傳へられたる」(日曜附録)」

大阪朝日新聞 11420号,2 (1913.11.23)

内容：別荘に女優と、偽ゴオリキイ、追放者植民地、算盤の稽古、私塾革命社、柄にない思郷病、下手な佛語、伊帝が知己、變な哲学

* 「文明史上の孤兒」大國民 64号,36-38 (1913.12.1)

* 「[アンナ・カレニナ]論」

早稻田文學(第二次) 97号,2-30 (1913.12.1)

* 「希伯來文學の研究(中)」昇直隆著

正教時報 2卷23号,24-34 (1913.12.5)

内容：七、對句の種類 八、對句を複雑にする爲に希伯來詩人の用ひし方法 九、對句研究の利益 十、對句の職責

* 「希伯來文學の研究(下)」昇直隆著

正教時報 2卷24号,14-20 (1913.12.20)

内容：十一、希伯來詩の聯句 十二、希伯來詩の句量 十三、希伯來詩の聯句に關するピッケルの思想 十四、希伯來詩の段落 十五、段落を識別する方法 十六、希伯來詩の二、三の特質(一 脚韻、二 和韻、三 同一綴音の反復、四 アルハベット詩)

大正3(1914)年

(訳) 「小犬(小品)」クウプリン.[著]

生活と藝術 1卷5号,30-32 (1914.1.1)

(訳) 「電報」ドオル作 モザイク 3卷1号,85-93 (1914.1.1)

のち、『露西亞現代文豪傑作集 第五編 チェーホフ傑作集』（東京大倉書店 1921.9.10）に収録

- * 「露西亞の女流作家（上）（文藝）」
時事新報 10906号, 5 (1914.1.11)
- * 「露西亞の女流作家（下）（文藝）」
時事新報 10907号, 5 (1914.1.12)
- * 「厭世文學の影響（日曜附録讀書號）」
讀賣新聞（朝）13190号, 6 (1914.1.18)
- * 「叙景詩人ブニン」新潮 20卷2号, 61-66 (1914.2.1)
- * 「最近の感想（十一）」〔アンケート〕
讀賣新聞（朝）13211号, 6 (1914.2.8)
- * 「『サアニン』と露國の社會的思潮（新劇壇の現在及び将来）」
新潮 20卷3号, 45-51 (1914.3.1)
- * 「殘忍なる天才（『虐げられし人々』に就て）」
文章世界 9卷3号, 56-60 (1914.3.1)
- * 「信仰上より見たる二大文豪」昇直隆著
正教時報 3卷6号, 21-26 (1914.3.20)
卷頭：「茲にいふ二大文豪とはトルストイとチェーホフとを謂ふのである。」
- (訳) 『虐げられし人々（上）』（近代名著文庫 第六編）ドストエーフスキイ作 東京 新潮社 1914.3.28 11, 2, 448p 肖像 20cm
〔卷頭献辞〕此譯本を恩師故ニコライ大主教の靈前に獻げまつる
内容：序（昇曙夢 pp.1-11）、凡例（pp.1-2）、第一編（pp.1-228）、第二編（pp.229-448）
- (訳) 『虐げられし人々（下）』（近代名著文庫 第六編）ドストエーフスキイ作 東京 新潮社 1914.3.28 449-957p 20cm
内容：第三編（pp.449-698）、第四編（pp.699-890）、結末（pp.891-957）
- (未見) 「露國の未來派」 大阪毎日新聞（大正3年4月11日～5月10日）
（注）早稻田文學（第二次）103号の「新聞雜誌文學一覽」（自四月

十一日至五月十日)に記載され、調査したが不明のため未見。

- * 「生と死と魔法と ソロゲープの『死の捷利』(月曜附録)」
 讀賣新聞(朝) 13275号,5 (1914.4.13)
- * 「露西亞(附、波蘭)(第四編 西洋文學講話 第二編 第四章)」(佐藤義亮編 新文學百科精講(前編))東京 新潮社 1914.4.20 所収 pp.481-546)
 内容:一 國民文學の樹立、二 社會的傾向、三 自然主義—虛無主義、四 愛他主義—宗教的傾向、五 最近文壇の概観、六 象徴主義、神秘主義、七 象徴主義以外の諸派、八 波蘭文學の一瞥のち一部内容を変更し、「露西亞文學講話」として佐藤義亮編『新文學百科精講』(東京 新潮社 1917.11.25)に再録。
 のち、『近代文藝十二講』生田長江、野上白川、昇曙夢、森田草平共著(東京 新潮社 1921.8.18)に収録。
 のち、新潮文庫(1933.9.27)
- (訳編)『秘密の地下室』(世界少年文學 第三編)ヴラデーミル・コロレンコ著 東京 博文館 1914.4.23 2,2,202p 図版 19cm
 (注)原作名「悪い仲間」
 内容:編者の序(pp.1-2)、目次(pp.1-2)、一 傳説の古城(pp.2-13)、二 廢墟の住者(pp.14-22)、三 乞食の「先生」(pp.23-32)、四 二人の奇人(pp.33-47)、五 魔法使(pp.48-58)、六 親子の悲歎(pp.59-74)、七 小さな探検隊(pp.75-82)、八 不思議の會堂(pp.83-100)、九 灰色の石(pp.101-117)、十 地下室(pp.118-133)、十一 山上の雷雨(pp.134-147)、十二 秘密の晚餐(pp.148-157)、十三 病める少女(pp.158-174)、十四 形見の人形(pp.175-188)、十五 愛と愛(pp.189-199)、十六 結末(pp.200-202)
- * 「予が生ひ立ちの記(月曜附録)」[アンケート]
 讀賣新聞(朝) 13289号,5 (1914.4.27)
- (訳) 「死の捷利」ソロゲープ作
 新潮 20巻5号,2-53 (1914.5.1)
 のち、『死の勝利』(パンテオン叢書 第二編)(東京 金櫻堂

1914.10.7) に収録

- * 「ソロゲブの人生觀と其の戯曲『死の捷利』」
新潮 20 卷 5 号, 105-109 (1914.5.1)
のち、『死の勝利』（パンテオン叢書 第二編）（東京 金櫻堂
1914.10.7）に「序」として収録
- * 「露西亞の未來派」 第三帝國 10 号, 6 (1914.5.1)
- * 「ドストエフスキイの創作（翻譯後の感想）」
早稻田文學（第二次）102 号, 28-32 (1914.5.1)
- * 「『虐げられし人々』翻譯の前後」
新潮 20 卷 6 号, 82-88 (1914.6.1)
- * 「近代露西亞文學の背景（附—露西亞のインテリゲンチヤ）」
文章世界 9 卷 6 号, 78-88 (1914.6.1)
- * 「實社會に對する我等の態度」[アンケート]
早稻田文學（第二次）103 号, 29 (1914.6.1)
- (談) 「最近のゴーリキー（最近思潮）」
早稻田文學（第二次）103 号, 68-70 (1914.6.1)
- (談) 「狂に近きロシヤの未來派（最近思潮）」
早稻田文學（第二次）103 号, 71-73 (1914.6.1)
- * 「アンドレーエフの宗教小説」昇直隆著
正教時報 3 卷 11 号, 12-22 (1914.6.5)
- * 「『死人の家』に就いて（月曜附録）」
讀賣新聞（朝）13338 号, 4 (1914.6.15)
- * 「三保の松原（曾遊の涼味）」
讀賣新聞（朝）13350 号, 4 (1914.6.27)
- * 「沈黙と悲劇—晩年のトルストイ」
第三帝國 14 号, 12 (1914.7.1)
- * 「序」（『子の見たる父トルストイ』イリヤ・トルストイ著 播磨樞吉訳
東京 新潮社 1914.7.10 所収 pp.7-19)
- * 「杜翁の宗教的悲劇」昇直隆著
正教時報 3 卷 14 号, 33-37 (1914.7.20)

* 「露國文壇の二名家（一）」
時事新報 11098号,5 (1914.7.22)

* 「露國文壇の二名家（二）」
時事新報 11099号,5 (1914.7.23)

* 「露國文壇の二名家（三）」
時事新報 11101号,5 (1914.7.25)

* 「露國文壇の二名家（四・完）」
時事新報 11104号, (1914.7.28)

(訳) 「ストライキ」アーツフ作

新公論 29年8号,29-34 (1914.8.1)

のち、『露西亞現代文豪傑作集 第五編 チェーホフ傑作集』（東京
大倉書店 1921.9.10）に収録

* 「趣味と好尚」[アンケート]
文章世界 9巻9号,105 (1914.8.15)

* 「厭世主義の文學 アルツイバーセフの近作（月曜附録）」
讀賣新聞（朝）13415号,4 (1914.8.31)

* 「露國文壇の新星（レーミゾフとツエンスキイ）」
文章世界 9巻10号,24-31 (1914.9.1)

* 「露西亞文壇の巨匠ゴーリキイ」
學生（富山房）5巻10号,94-106 (1914.9.15)

（注）「立志號」（別刊発行）、ゴーリキイのポンチ繪あり。

内容：一 上繪師の子、二 ウオルガ河のほとり、三『過去の人々』、四 空と土、五 パンの碎片、六 自殺を企つ、七 奇蹟的成功、八 渴仰の中心、九 數多の偽ゴーリキイ、一〇 個性の目ざめ、一一 追はれたる文豪、一二 伊太利皇帝の歡待、一三 彼の健康と創作力、一四 なつかしき故國の露西亞

* 「交歡－読者より同人へ」
第三帝國 19号,16 (1914.9.16)

（注）「第三帝國」發賣禁止に対するコメント

(抄訳)「露帝の平生と御性行＝政務、嗜好、娯樂、逸話、御家族等＝」

新日本 4巻12号,161-168 (1914.10.1)

巻頭に「去年ロマノフ家即位三百年祭の大祝典が行はれた時、露國のエルチャニノフ教授は『ニコライ・アレキサンドロウイチ皇帝(現帝)の治世』と題する面白い書物を公にした。(中略)特に面白さうな數節を抄譯して讀者諸君の清覽に供する所以である」とある。内容：露帝の御平生、露帝の御性質、露帝の御家族、露帝の嗜好・娛樂、露帝の御信心
のち、一部変更して『露國及露國民』(東京 銀座書房 1915.6.1)に収録。

* 「露西亞の戰爭文學」文章世界 9巻11号,240-249 (1914.10.1)

* 「レルモントフの誕生記念に(讀賣文壇)」

讀賣新聞(朝) 13448号,4 (1914.10.3)

(訳) 「死の勝利 序詞及び三幕 附白いお母様」(パンテオン叢書 第二編)

ソログーブ作 東京 金櫻堂 1914.10.7 [1], VII, 115p 肖像 16 cm

(注) 巻末に正誤表あり。

内容：目次 [p.1]、序(昇曙夢著 pp. I - VII)、死の勝利 (pp.1-81)、附・白いお母様 (pp.83-103)、白い犬 (pp.105-115)

(訳) 「戰爭と國家と個人」ウラジミル・ソロウイヨフ

第三帝國 21号,4-5 (1914.10.15)

のち、「戰爭と個人的問題」としてソロウイヨフ著『戰爭と世界の終局』(時事叢書 第十三編)(東京 富山房 1914.12.3)に収録。

* 「スラヴ民族の將來(月曜附録)」

讀賣新聞(朝) 13464号,4 (1914.10.19)

(講演) 「露西亞文學と民族性(思潮)」

教育實驗界 34巻8号,9-12 (1914.10.20)

(注) 末尾に(未完)とあり、34巻11号に続く。

* 「スラヴ民族論」昇直隆著

正教時報 3巻20号,11-24 (1914.10.20)

のち、「六合雜誌」408号(1915.1.1)に再録。

* 「露西亞の戰爭文學(文壇新潮)」

新潮 21 卷 5 号, 74 (1914.11.1)

(注)「文章世界」 9 卷 11 号 (1914.10.1) からの引用。

- * 「詩人ブーニン」 創造 50 号, 5-13 (1914.11.1)
- * 「パリモントの藝術」 早稲田文學 (第二次) 108 号, 19-28 (1914.11.1)
- * 「理智の詩人 ブリュースフ [上] (文藝)」

時事新報 11202 号, 8 (1914.11.3)

- * 「理智の詩人 ブリュースフ (下) (文藝)」

時事新報 11204 号, 8 (1914.11.5)

- * 『ツルゲーニェフ』(近代文豪評傳 2) 東京 實業之日本社 1914.11.5

2, 2, 344p 肖像 19 cm 奥付の著者表示: 昇直隆

内容: 小序 (昇曙夢著 pp.1-2)、目次 (pp.1-2)、一 時代 (pp.1-14)、二 祖先と父母 (pp.15-24)、三 幼年時代 (pp.25-36)、四 大學時代 (pp.37-48)、五 獨逸留學時代 (pp.49-61)、六 仕官 (pp.62-70)、七 初期の作物 (pp.71-81)、八 ベリンスキイとの交友 (pp.82-94)、九 『獵夫記』時代 (pp.95-108)、十 第二期の作物 (pp.109-119)、十一 禁錮 (pp.120-133)、十二 全盛時代 (pp.134-156)、十三 第三期の作物 (pp.157-188)、十四 農奴解放 (pp.189-198)、十五『父と子』事件 (pp.199-217)、十六 巴里の生活 (pp.218-240)、十七 第四期の作物 (pp.241-270)、十八 晩年 (pp.271-298)、十九 人物—態度—作風 (pp.299-326)、二十 結論 (pp.327-335)、附録 ツルゲーニェフ著作年表 (一八三八年—一八八三年) (pp.337-344)

- * 「露西亞文壇の最近傾向—アクメイズムとアダミイズム」

新潮 21 卷 6 号, 13-18 (1914.12.1)

- (談) 「文明史上より見たる露西亞」

新評論 1 卷 2 号, 33-35 (1914.12.1)

- * 「大正三年文藝界の事業、作品、人」

早稲田文學 (第二次) 109 号, 43-44 (1914.12.1)

- (訳) 『戦争と世界の終局』(時事叢書 第十三編) ソロウィヨフ著 東京 富山房 1914.12.3 6, 4, 128p 肖像 19 cm 奥付の著者表示: 昇直隆
内容: 序 (昇曙夢著 pp.1-6)、目次 (pp.1-4)、戦争の意義 一 序論

(pp.1-6)、二 戦争と道德 (pp.7-13)、三 戦争と文明 (pp.14-29)、
四 戦争と基督教 (pp.30-44)、五 戦争の歴史的意義 (pp.45-49)、
六 戦争と個人的問題 (pp.50-63)、七 國家と個人 (pp.64-70) 附
篇 世界未來記 (一名超人物語) (pp.71-128)

(講演) 「露西亞文學と國民性 (第八號に續く) (思潮)」

教育實驗界 34 卷 11 号, 8-12 (1914.12.5)

大正 4 (1915) 年

* 「トルストイ論」 新日本 5 卷 1 号, 220-224 (1915.1.1)

(談) 「藝術の好きな露西亞少年」

中學世界 18 卷 1 号, 132-135 (1915.1.1)

(訳) 「泥沼」クープリン作

文章世界 10 卷 1 号, 136-166 (1915.1.1)

のち、『零落者の群』(東京 春陽堂 1917.2.15) に収録。

* 「近代露西亞文學の主潮及特質」

六合雜誌 408 号, 13-32 (1915.1.1)

* 「スラヴ民族論 - 正教時報、スラヴの偶像 - 萬朝 (スラヴ民族二論)」

昇直隆著 六合雜誌 408 号, 74-80 (1915.1.1)

(注) 「萬朝報」の初出データは不明。

(訳) 『静かな曙 外五種』(パンテオン叢書 第七編) ボリイス・ザイツ

エーフ作 東京 金櫻堂 1915.1.15 2, 118p 肖像 16 cm

内容: 小序 (昇曙夢 pp.1-2) 静かな曙 (pp.1-21) 客 (pp.23-37) 死
(pp.39-60) 姉 (pp.61-74) 妻 (pp.75-92) 狼 (pp.93-104) 附録 ザイ
ツェフの藝術 (昇曙夢 pp.105-118)

* 「『新しき空氣と氣分』の作者 (上)」

第三帝國 30 号, 13 (1915.1.25)

内容: 現代思潮と彼 [グコーフスキイ]、新氣分新空氣、イブセンと彼

* 『露國現代の思潮及文學』東京 新潮社 1915.2.5 6, 6, 756p 21 cm

内容: 序 (pp.1-6)、目次 (pp.1-6) 前編 一、總論 現代露西亞文學
思潮 (pp.2-37)、アントン・チエーホフ略傳 (pp.39-40)、二、チエー

ホフと其時代 (pp.41-52)、三、藝術家としてのチェーホフ (pp.53-65)、四、劇作家としてのチェーホフ (pp.66-80)、マキシム・ゴオリキイ略傳 (pp.81-82)、五、ゴオリキイの藝術 (pp.83-115)、六、放浪時代のゴオリキイと其作品 (pp.116-127)、七、ゴオリキイの代表的戯曲 (pp.128-136)、レオニード・アンドレーエフ自叙傳 (pp.137-138)、八、アンドレーエフの思想と作風 (pp.139-173)、九、アンドレーエフの藝術に於ける事實と氣分 (pp.174-195)、一〇、アンドレーエフの作品と其印象 (pp.196-257)、アレキサンドル・クープリン略傳 (pp.259-260)、一一、クープリンの藝術思想 (pp.261-277)、一二、藝術家としてのクープリン (pp.278-293)、一三、クープリンの代表的作品 (pp.294-318)、ミハイル・アルツイバーセフ自叙傳 (p.319)、一四、アルツイバーセフの厭世主義 (pp.321-330)、十五、露國の社會思潮と『サアニン』 (pp.331-349)、十六、アルツイバーセフの作品 (pp.350-375)、フヨードル・ソログーブ自叙傳 (p.377)、十七、死の讚美者ソログーブ (pp.379-400)、十八、ソログーブの藝術 (pp.401-416)、十九、ソログーブの代表的戯曲 (pp.417-431)、ウエレサーエフ・スミドウイチ、エフゲーニイ・チリコフ肖像 (p.433)、二〇、ウエレサーエフとチリコフ (pp.435-442)、アナトリー・カーメンスキイ自叙傳 (p.443)、二一、カアメンスキイと其作品 (pp.445-453)、ボリス・ザイツェフ略傳 (p.455)、二二、ザイツェフの新浪曼主義 (pp.457-470)、アレキセイ・トルストイ肖像 (p.471)、二三、トルストイの新寫實主義 (pp.473-491)、新進諸作家肖像 (p.493)、二四、新進諸作家 (レーミゾフ、ツェンスキイ、ドゥイモフ、ロープシン) (pp.495-514)、後編 一、現代露西亞詩壇概論 (pp.515-529)、デミトリイ・メレヂュコーフスキイ自叙傳 (pp.531-532)、二、メレヂュコーフスキイ論 (pp.533-558)、コンスタンチン・バリモント自叙傳 (pp.559-560)、三、刹那の詩人バリモント (pp.561-583)、四、バリモントの貴族的個人主義 (pp.585-602)、ワレーリイ・ブリューソフ自叙傳 (p.603)、五、理知の詩人ブリューソフ (pp.605-619)、イワン・ブーニン自叙傳

(p.621)、六、ブーニンの藝術 (pp.623-635)、七、叙景詩人としてのブーニン (pp.637-649)、アンドレイ・ベールイ自叙傳 (p.651)、ウヤチェスラフ・イワーノフ自叙傳 (p.652)、八、イワーノフとベールイ (pp.653-668)、アレキサンドル・ブロック自叙傳 (p.669)、九、都會詩人ブロック (pp.671-689)、セルゲイ・ゴロデツキ自叙傳 (p.691)、一〇、アクメイズムとアダミイズム (pp.693-704) 一一、フューチュリイズム (pp.705-713)、批評家の肖像 (p.715)、一二、批評家グコーフスキイ (pp.717-731)、女流作家肖像 (p.733)、一三、現代女流作家 (ヂナイダ・ギツピウス、ウェルビツカヤ、シチェプキナ・クウペルニク、チャールスカヤ、ナグロードゥスカヤ) (pp.735-756)

* 「『新しき空氣と氣分』の作家〔下〕」

第三帝國 31号, 16 (1915.2.5)

内容：自由と幸福、先驅者の影響

* 「ドストエフスキイと「白痴」(日曜附録)」

讀賣新聞 (朝) 13574号, 4 (1915.2.7)

* 「開戦後の露西亞文壇」

學鐙 19年2号, 5-10 (1915.2.18)

* 「メレジュコーフスキイの作物に現はれたる靈肉一致の思想 (第三、第三帝國の思想としての靈肉問題)」(益進會同人編『第三帝國の思想』東京 益進會 1915.2.22 所収 pp.160-180)

* 「露西亞生活の特徴と背景」

第三帝國 33号, 12-13 (1915.2.25)

内容：一 ウォーツカ、二 サモワル、三 バアニヤ、四 希臘正教、五 正教徒と邪教徒、六 露西亞生活の三要素

* 「著作権の在る處 (著作興行權問題二)」

讀賣新聞 (朝) 13604号, 4 (1915.3.9)

* 「露西亞の知識階級」(馬場勝弥後援會編『孤蝶馬場勝弥氏立候補後援現代文集』東京 實業之世界社 1915.3.12 所収 pp.71-80)

* 「開戦後の露國文壇 (承前)」

學鐙 19年3号,7-11 (1915.3.20)

(訳) 「奇蹟 (文藝附録)」チリコフ作

新日本 5巻4号,225-236 (1915.4.1)

のち、『零落者の群』(東京 春陽堂 1917.2.15)に収録。

(訳) 「恐怖」アルツイバーセフ作

早稲田文學 (第二次) 113号,251-276 (1915.4.1)

のち、『零落者の群』(東京 春陽堂 1917.2.15)に収録。

(訳) 『全譯戦争と平和 (第一)』(縮刷全譯叢書)トルストイ著 昇曙夢、米

川正夫訳 東京 新潮社 1915.4.22 400p 肖像 17cm

(注)『新潮社100年図書総目録』(紀田順一郎監修 1996.10.10)に従って「縮刷全譯叢書」とした(以下、第六まで同じ)。この総目録の60頁の上欄、大正四年4月22日項目に「『縮刷全譯叢書』全十冊の刊行を始める(→6・5・5)。超小型版の『新潮文庫』に収録不可能な大作のみを、菊半載の本叢書に網羅する。このうち『懺悔録』(上下)は、同じく菊半載の単行本として重版され、『戦争と平和』は七年三月に全三巻の特製合本を再版する。」とある。しかし、のちにここに挙げられている十冊以外に、久米正雄譯『全譯沙翁名作選』の広告文にも「縮刷全譯叢書」とされているので全容は不明である。

* 「子供命名の由来 (一)」[アンケート]

女の世界 創刊号,122 (1915.5.1)

* 「悲劇的國民 (露國々民性の一面)」昇直隆著

太陽 21巻5号,140-146 (1915.5.1)

のち、『露國及露國民』(東京 銀座書房 1915.6.1)に収録。

* 「『戦争と平和』を論ず 一～十一」

三田文學 6巻5号,33-58 (1915.5.1)

* 「『戦争と平和』を論ず 十二～十九」

三田文學 6巻6号,24-44 (1915.6.1)

* 『露國及露國民』東京 銀座書房 1915.6.1 6,288p 19cm

内容:序(pp.1-4)目次(pp.5-6)一、序論 露西亞と歐羅巴(pp.2-19)二、露西亞の國土と民族(pp.20-46)三、大露西亞の自然と人

(pp.47-60) 四、露西亞文學と國民性 (pp.61-90) 五、露人の悲劇的性質 (pp.91-109) 六、露國々民生活の特徴及背景 (pp.110-125) 七、露國に於ける貴族と農民 (pp.126-145) 八、哥薩克氣質 (pp.146-170) 九、露西亞婦人 (pp.171-200) 十、露國の青年學生 (pp.201-221) 十一、露國の知識階級 (pp.222-238) 十二、露國民の過去及將來 (pp.239-257) 附録 露國皇帝の日常生活 (pp.259-288) 一、陛下の御平生 二、陛下の御性行 三、陛下の御家族 四、陛下の御嗜好 五、陛下の御信心
のち、附録を削除して『露國及露國民 [改版]』(東京 忠文堂書店 1918.9.25) を刊行。

(訳) 「一分間 (一)」アルヒーポフ作

第三帝國 42号, 26-27 (1915.6.5)

連載完結後、「一刹那」と改題して『世界短篇小説大系 露西亞篇 下巻』(東京 近代社 1925.6.30) に収録。

(講演) 「露西亞文學と國民性 (世界の學生)」

中學世界 18卷8号, 32-41, 48, 129 (1915.6.5)

内容: 1 露西亞のシンボル、2 宗教に凝った國民、3 露西亞國民の自覺、4 憂鬱は露國の民族病、5 酒好きな民族、6 國民性を代表する湯沸し、7 みすぼらしい實生活、8 特色ある露西亞文學、9 運命に安ずる國民

(注) 末尾に「(日比谷圖書館著者講演會に於て)」とあり。

(訳) 「一分間 (二)」アルヒーポフ作

第三帝國 43号, 26-27 (1915.6.15)

(訳) 「一分間 (三・終)」アルヒーポフ作

第三帝國 44号, 27 (1915.6.25)

(訳) 「妙な男」チェーホフ作

早稲田文學 (第二次) 116号, 255-272 (1915.7.1)

のち、「箱の中の男」と改題し『零落者の群』(露西亞現代作家選集) (東京 春陽堂 1917.2.15) に収録。

(訳) 「山の神 = 露國現代諷刺小説 = (日曜附録)」アーツフ作

- 大阪朝日新聞 12008号,1 (1915.7.4)
- (訳) 「襲撃 (漫録)」アレキセイ・トルストイ作
 外交 1巻11号,131-142 (1915.8.1)
 のち、「狼狽」と改題、修正し『零落者の群』(露西亞現代作家選集)
 (東京 春陽堂 1917.2.15) に収録。
- * 「夏の趣味 (讀賣文壇)」[アンケート]
 讀賣新聞 (朝) 13775号,6 (1915.8.27)
- * 「農奴解放を中心として觀たる露西亞文明」
 科學と文藝 1年1号,1-9 (1915.9.1)
- * 「露國の親日運動 (上)」
 秋田魁新報 8659号,1 (1915.9.3)
- * 「露國の親日運動 (下)」
 秋田魁新報 8660号,1 (1915.9.4)
- (訳) 「歐洲大亂と我黨の態度 (漫録)」クロポトキン著
 外交 2巻1号,117-133 (1915.10.1)
- (訳) 「我等が生活の日 (藝術座上演用臺本) (附録)」アンドレーエフ作
 早稻田文學 (第二次) 119号,1-37 (1915.10.1)
 のち、『露西亞現代文豪傑作集 第一編 アンドレーエフ傑作集』
 (東京 大倉書店 1920.10.5) などに収録。
- (訳) 「我等が生活の日 (承前完結) (附録)」アンドレーエフ作
 早稻田文學 (第二次) 121号,39-79 (1915.12.1)
 のち、『露西亞現代文豪傑作集 第一編 アンドレーエフ傑作集』
 (東京 大倉書店 1920.10.5) などに収録。
- (未見) 「智識階級の乞食文士」
 搖籃 (大正4年12月11日～5年1月10日)
 (注) 早稻田文學 (第二次) 123号の「新聞雜誌文學一覽」(自十二月十一日至一月十日) に記載されているが所蔵館不明のため未見。

大正5 (1916) 年

- (未見)(訳) 『どん底の人々』ゴーリキイ作 高踏書房 1916.1.

『六人集と毒の園』など各種の年譜に記載はあるが未確認。

（注）讀賣新聞 13844号,7 (1915.11.4) の「よみうり抄」に

「▲昇曙夢氏譯ゴルキーの「過去の人々」は近く高踏書房より出版の筈」とある。各方面を調査したが確認をとれなかった、未刊行では？

- * 「ロシヤ思想の結晶」科學と文藝 2年1号,24-27 (1916.1.1)
- * 「現代ロシヤの作家の描く女と二人の閨秀作家」
處女 12年1号,16-21 (1916.1.1)
- * 「大正五年文壇の豫想」[アンケート]
新潮 24卷1号,109 (1916.1.1)
- * 「露西亞文明の將來」第三帝國（新理想主義）58号,29-30 (1916.1.5)
- (訳) 「深淵」アンドレーエフ作（齋藤未鳴編『明治文藝側面鈔 第一輯』
横浜 樹海社 1916.1.30 所収 pp.187-224）
（注）「新小説」14年第10号（明治42年10月）に掲載されたもの
- * 「文壇諸家年譜（2）昇曙夢」新潮社記者の記事
新潮 24卷2号,98-99 (1916.2.1)
- * 『日本百科大辭典 第七巻』東京 日本百科大辭典完成會 1916.3.12
1502p 27cm
執筆項目：ツルゲーニェフ（p.312）、デルジャーウイン（p.578）、ド
ストイェフスキイ（pp.1037-1038）、ドブロリユーボフ（p.1083）、ト
ルストイ（p.1191）、ナドソン（p.1339）、ニキーチン（p.1445）
- (訳) 『全譯戦争と平和（第二）』（縮刷全譯叢書）トルストイ著 昇曙夢、米
川正夫訳 東京 新潮社 1916.3.20 401-844p 17cm
（注）『全譯戦争と平和（第一）』（1915.4.22）の（注）を参照せよ。
- (訳) 『全譯戦争と平和（上）』トルストイ著 昇曙夢、米川正夫訳 東京
新潮社 1916.3.20 [2],843p 肖像 17cm
内容：目次（pp. [1-2]）、第一編（pp.1-217）、第二編（pp.219-400）、
第三編（pp.401-590）、第4編（pp.591-700）、第五編（pp.701-843）
（注）『全譯戦争と平和（第一）』（1915.4.22）の（注）を参照せよ。
1918年3月刊の「特製合本」らしいが手元にあるのは八版（大正十

年五月五日) であるので確認できない。奥付の初刷りの日付を採用し、ここに置いた。

- (訳) 『全譯戦争と平和 (中)』トルストイ著 昇曙夢、米川正夫訳 東京
新潮社 1916.3.20 845-1655p 17 cm
内容：第六編 (pp.845-989)、第七編 (pp.991-1088)、第八編
(pp.1089-1227)、第九編 (pp.1229-1381)、第十編 (pp.1383-1655)
(注)『全譯戦争と平和 (第一)』(1915.4.22) の (注) を参照せよ。
1918年3月刊の「特製合本」らしいが手元にあるのは六版(大正九年五月十八日) であるので確認できない。奥付の初刷りの日付を採用し、ここに置いた。
- (訳) 『全譯戦争と平和 (下)』トルストイ著 昇曙夢、米川正夫訳 東京
新潮社 1916.3.20 1657-2452p 17 cm
内容：第十一編 (pp.1657-1870)、第十二編 (pp.1871-1974)、第十三編 (pp.1975-2055)、第十四編 (pp.2057-2143)、第十五編 (pp.2144-2249)、後語 第一編 (pp.2252-2358)、第二編 (pp.2359-2437)、後語
戦争と平和に就きて (pp.2439-2452)
(注)『全譯戦争と平和 (第一)』(1915.4.22) の (注) を参照せよ。
1918年3月刊の「特製合本」らしいが手元にあるのは六版(大正九年五月十八日) であるので確認できない。奥付の初刷りの日付を採用し、ここに置いた。
- * 「トルストイに関する著作と露西亞語の獨習 (自由研究通信講座)」
新潮 24巻5号, 108 (1916.5.1)
- * 「メレジュコーフスキイの近業 (最近文藝思潮)」
三田文學 7巻5号, 112-117 (1916.5.1)
- (談) 「歐洲戦後の文學と思潮 (九) 露西亞の夫は奈何なる? 上 (文藝)」
時事新報 11756号, 5 (1916.5.10)
- (談) 「歐洲戦後の文學と思潮 (十) 露西亞の夫は奈何なる? 下 (文藝)」
時事新報 11757号, 5 (1916.5.11)
- (談) 「最近來朝の露國文豪 ゴルキー氏の消息」
讀賣新聞 (朝) 14034号, 5 (1916.5.13)

- (談) 「來遊の噂あるゴリキー（讀賣文壇）」
讀賣新聞（朝）14037号,7（1916.5.16）
- * 「バリモント氏と語る（一）（讀賣文壇）」
讀賣新聞（朝）14046号,7（1916.5.25）
- * 「バリモント氏と語る（二）（讀賣文壇）」
讀賣新聞（朝）14047号,7（1916.5.26）
- * 「バリモント氏と語る（三・完）（讀賣文壇）」
讀賣新聞（朝）14048号,7（1916.5.27）
- (訳) 「バリモントの詩」 三田文學 7巻6号,158-170（1916.6.1）
- * 「パラドックスな事實（如何にタゴールを見る乎－文壇十八家の感想）」
[アンケート] 新潮 25巻1号,11（1916.7.1）
- * 「タゴールの印象と感想」[アンケート]
六合雜誌 426号,90（1915.7.1）
- * 「發賣禁止の上に現はれた日本と露西亞」
第三帝國 71号,10-11（1916.7.15）
- (訳) 「詩の國 日本の一週間（一）」バリモント [著]
讀賣新聞（朝）14101号,7（1916.7.19）
- (訳) 「詩の國 日本の一週間（二～三）」バリモント [著]
讀賣新聞（朝）14102号,7（1916.7.20）
- (訳) 「詩の國 日本の一週間（四・完）」バリモント [著]
讀賣新聞（朝）14103号,7（1916.7.21）
- * 「教育と文學—文學者より見たる教育及び教育者」[アンケート]
教育實驗界 37巻7号,66（1916.8.1）
- * 「昇曙夢氏より」 日本評論 1巻16号,91（1916.8.1）
- * 「露西亞文明を促進せる二大思潮」
新小説 21年9巻,45-60（1916.9.1）
- * 「ソロウイヨフの神人的世界觀（上）（最新思潮講話14）」
新潮 25巻3号,84-90（1916.9.1）
- * 「露西亞文學の社會意義」
新日本 6巻9号,102-109（1916.9.1）

- * 「露西亞文學に於けるトルストイの地位」
トルストイ研究 1号, 6-10 (1916.9.1)
- * 「ゴーリキイの文學的使命《ゴーリキイは何を宣傳したるか》」
日本及日本人 689号, 517-524, 527-533 (1916.9.20)
のち、『藝術の勝利—露西亞研究』（東京 日本評論社出版部
1921.10.15）に収録
- * 「露國の文學」（教育學術研究會編『露國研究』東京 同文館雜誌部
1916.9.23 所収 pp.255-303）
内容：一、序説 二、國民文學の確立 三、四十年代（ペリンス
キイ時代）四、暗黒時代と光明時代 五、大改革時代の作家 六、
六十年代（虚無主義時代）七、七十年代（他愛主義時代）八、
八十年代及び九十年代 九、現代文學
- (訳) 『全譯戦争と平和（第三）』（縮刷全譯叢書）トルストイ著 昇曙夢、米
川正夫訳 東京 新潮社 1916.9.24 845-1227p 17 cm
(注)『全譯戦争と平和（第一）』（1915.4.22）の（注）を参照せよ。
- (訳) 「手紙一つ（扉）」トルストイ著
トルストイ研究 2号, 1 (1916.10.1)
- (訳) 「ボロディノのナポレオン」トルストイ著
トルストイ研究 2号, 20-23 (1916.10.1)
(注)「戦争と平和」の一節
- * 「日本民族と露西亞民族（日本國民性の比較研究）」
日本評論 1卷 18号, 78-84 (1916.10.1)
- * 「露西亞文學に就いて」
文章俱樂部 1年 6号, 25-27 (1916.10.1)
- * 「ロシヤ民族性のシムボル」
文章世界 11卷 10号, 300-313 (1916.10.1)
のち、一部追加して（ゴンチャロフ作 山内封介譯『オブローモフ
（上）』（縮刷全譯叢書）東京 新潮社 1917.1.25）の「序」文として
いる。
- * 「露西亞文學の神秘的傾向」昇直隆著

六合雜誌 429号, 10-11 (1916.10.1)

のち、「正教時報」5巻20号 (1916.10.20) に再録。

- * 「信仰生活上忘れぬ経験（感想）」〔アンケート〕

六合雜誌 429号, 82 (1916.10.1)

- * 「露西亞文學の神秘的傾向（六合雜誌）（思潮一斑）」昇直隆著

正教時報 5巻20号, 50-51 (1916.10.20)

- (訳) 『全譯戦争と平和（第四）』（縮刷全譯叢書）トルストイ著 昇曙夢、米川正夫訳 東京 新潮社 1916.10.24 1229-1655p 17cm

（注）『全譯戦争と平和（第一）』（1915.4.22）の（注）を参照せよ。

- * 「憧憬と宗教の文學」近代思潮 2年11号, 10-15 (1916.11.1)

- * 「「オブローモフ」（昇曙夢－文章世界）（文壇新潮）」

新潮 25巻5号, 80 (1916.11.1)

（注）「文章世界」11巻10号 (1916.10.1) 「ロシヤ民族性のシムボル」からの引用。

- * 「ソロウィヨフの神人的世界観（下）（最新思潮講話15）」

新潮 25巻5号, 88-92 (1916.11.1)

- (訳) 『全譯戦争と平和（第五）』（縮刷全譯叢書）トルストイ著 昇曙夢、米川正夫訳 東京 新潮社 1916.11.28 1657-2055p 17cm

（注）『全譯戦争と平和（第一）』（1915.4.22）の（注）を参照せよ。

- (訳) 『全譯戦争と平和（第六）』（縮刷全譯叢書）トルストイ著 昇曙夢、米川正夫訳 東京 新潮社 1916.12.14 2057-2452p 17cm

（注）『全譯戦争と平和（第一）』（1915.4.22）の（注）を参照せよ。

大正6（1917）年

- * 「露西亞文明に於ける人道主義の發展」

第三帝國 80号, 16-17 (1917.1.1)

のち、「ロシヤ人道主義の發達」と改題し、『露國改造の悲劇』（東京 豫章堂 1920.4.15）に収録。

- (訳) 「トルストイの日記（附録）」トルストイ著

トルストイ研究 2年1号, 1-15 (1917.1.1)

- * 「序」(ゴンチャロフ作 山内封介譯『オブローモフ(上)』(縮刷全譯叢書)東京 新潮社 1917.1.25 所収 pp.1-19)
- (訳) 「子供達の為に」トルストイ著
トルストイ研究 2巻2号, 42-46 (1917.2.1)
内容: 金髪王女、二人兄弟、大僧正と強盜
- (訳) 『蠟燭と二老人 外三篇』(トルストイ小話文庫 第一編)東京 新潮社 1917.2.15 138p 16cm
内容: 『トルストイ小話文庫』刊行の旨趣 (p.1)、解題 (pp.2-3)、目次 (p.4)、蠟燭 (pp.5-37)、二老人 (pp.39-115)、附篇: (一) 女の子は老人よりも伶俐である (pp.117-122)、(二) 悪魔に依る者は脆く神に依る者は強し (pp.123-130)、(三) 二人の兄弟と黄金 (pp.131-138)
- (訳) 『零落者の群』(露西亞現代作家選集)東京 春陽堂 1917.2.15
[1], [1], 410p 16cm
内容: はしがき (昇曙夢著 p. [1])、目次 (p. [1])、零落者の群 (マキシム・ゴーリキイ作 pp.1-148)、泥沼 (アレキサンドル・クウブリン作 pp.149-187)、恐怖 (ミハイル・アルツイバアセフ作 pp.189-237)、霧の中 (レオニド・アンドレーエフ作 pp.239-271)、白い犬 (フヨードル・ソログウブ作 pp.273-285)、リーナ (ボリス・ザイツエフ作 pp.287-305)、一刹那 (エヌ・アルヒイポフ作 pp.307-335)、奇蹟 (エウゲニイ・チリコフ作 pp.337-359)、狼狽 (アレキセイ・トルストイ作 pp.361-379)、箱の中の男 (アントン・チエーホフ作 pp.381-410)
- * 「再び小トルストイ伯を訪ふ (日曜附録)」
讀賣新聞 (朝) 14314号, 7 (1917.2.18)
- * 「小トルストイ伯訪問記」
トルストイ研究 2巻3号, 4-7 (1917.3.1)
- (談) 「露國の革命に就て (時潮)」
秋田魁新報 9224号, 1 (1917.3.21)
- (談) 「露國の革命に就て (續) (時潮)」

秋田魁新報 9225号, 1 (1917.3.22)

- * 『日本百科大辭典 第八卷』東京 日本百科大辭典完成會 1917.3.23
1528p 27 cm
執筆項目: ネクラースフ (pp.186-187)、ノヴィコフ (p.263)、汎スラ
ヴ主義 (pp.1080)、プーシュキン (p.1493)
- * 「箱の中の男 昇曙夢氏譯『零落者の群』より」チエーホフ [作]
中央文学 1年1号, 18 (1917.4.1)
- * 「泥沼 昇曙夢氏譯『零落者の群』より」クープリン [作]
中央文学 1年1号, 40 (1917.4.1)
- * 「歐洲戦争とロシヤ文學」
中央文学 1年1号, 49-52 (1917.4.1)
- * 「露西亞革命運動の進展と虚無思想の發達 (論衡)」
東方時論 2卷4号, 1-21 (1917.4.1)
内容: 一 虚無思想の發祥、二 虚無主義の第一戰、三 理性的勞
働の要求、四 パリ社會黨の感化、五 政府の高壓手段、六 彈丸
は言葉よりも明也、七 アレキサンドル二世の暗殺、八 國會開議
まで、九 ロマノフ朝の運命
- (訳) 「子供達の為に (トルストイ御伽噺)」
トルストイ研究 2卷4号, 50-53 (1917.4.1)
内容: 國老アブドウール、孝子の譽、王様と小屋、王様と襯衣
- * 「有意義な露國革命」第三帝國 83号, 26 (1917.4.10)
- * 「露西亞文學の意義、特質」
露西亞 (サモワル社) 創刊号, 2-6 (1917.4.10)
のち、「正教時報」6卷10号 (1917.5.20) に梗概が再録される。
- * 「舊露西亞より新露西亞へ」
新人 18卷5号, 29-50 (1917.5.1)
目次の著者表示: 昇曙夢
内容: 一、ヒザンチンと韃靼 二、露西亞の勃興 三、新露西亞の
建設 四、二つの源泉 五、文明史上の孤兒 六、人道主義の勃興
七、露國々民性の特徴 八、露西亞文化の要素 九、革命運動の意

義 十、露西亞文明の將來

のち、「正教時報」6卷11号(1917.6.5)に梗概が再録される。

- * 「露國民は平和民主の民なり(諸家論叢 露國民主々義と侵略主義)」
大日本 4卷5号,80(1917.5.1)

- * 「退位せられたる露國皇帝御一代の哀史(説苑)」

中央公論 32年5号,1-28(1917.5.1)

内容：一、國體の矛盾 二、運命の悲劇 三、不吉の兆 四、廢帝の性格 五、若いヘツセンの姫君 六、皇太后の陰謀 七、皇后の不安 八、廢帝の愛妾 九、怪僧の素性 十、篝火の周圍 十一、皇室と怪僧 十二、怪僧の專横 十三、殺害當夜の光景 十四、墓上の奇蹟 十五、連累者の處分 十六、前皇后の陰謀 十七、偽カザリン二世 十八、退位の刹那 十九、廢帝の近状

(注) 卷末に(本文は余の豫て傳聞せる事實の外は凡て近着の露字新聞「ルースカヤ・ウオーリヤ」に據つたのであるが、傍ら時事新報紙上の播磨君の通信をも参考したことを辭しておく)とある。

のち、『露國革命と社會運動』(東京 國民書院 1917.12.25)に一部変更し再録。

- * 「ロシヤの自然と其詩人(特別記事露西亞事情)」

中學世界 20卷6号,146-154(1917.5.1)

(訳) 「偶然」トルストイ著

トルストイ研究 2卷5号,24-27(1917.5.1)

- * 「民族性より見たる露國革命と其將來(露西亞革命の研究)」

日本評論 2卷5号(25号),50-55(1917.5.1)

(談) 「文學上より見たるロシア革命」

早稻田文學(第二次)138号,29-33(1917.5.1)

- * 「露國革命と露西亞思想」

第三帝國 84号,28-30(1917.5.10)

内容：露國革命の淵源、露國の思想界、壓迫の時代來る、虛無思想の勃興、第二期の壓迫、大革命の近因、露國の國民性、矛盾の露西亞、露國の新紀元

- * 「露西亞文學の意義、特質 (「露西亞」) (思潮一斑)」
正教時報 6 卷 10 号, 50-51 (1917.5.20)
(注) 「露西亞」(サモウル社) 創刊号 (1917.4.10) の梗概。
- * 「舊露西亞より新露西亞へ (「新人」五月号號) (思潮一斑)」
正教時報 6 卷 11 号, 56-57 (1917.6.5)
(注) 「新人」18 卷 5 号 (1917.5.1) の梗概。
- (訳) 「ヂナイダ・ギツピウスの詩 (メレジユコーフスキイ夫人)」
近代藝術 1 卷 4 号, 1-4 (1917.8.1)
内容: 祈祷、歌、水蛭
- * 「露國革命と文學者の宣言」
露西亞 (サモウル社) [5] 号, 7-9 (1917.8.1)
- * 「新ロシヤの創造 一 (文藝)」
時事新報 12257 号, 8 (1917.9.23)
- * 「露國の反政府熱 (時潮)」
秋田魁新報 9412 号, 1 (1917.9.25)
- * 「露國革命の意義 (一) (時論)」
教育時論 1168 号, 3-6 (1917.9.25)
内容: 一、革命の近因 二、革命の経過
- * 「新ロシヤの創造 二 (文藝)」
時事新報 12260 号, 8 (1917.9.26)
- * 「新ロシヤの創造 三 (文藝)」
時事新報 12261 号, 8 (1917.9.27)
- * 「新ロシヤの創造 四・完 (文藝)」
時事新報 12262 号, 8 (1917.9.28)
- * 「杜翁出現以前の露西亞文壇の概勢」
トルストイ研究 2 卷 10 号, 2-9 (1917.10.1)
- * 「露國革命の意義 (二) (時論)」
教育時論 1169 号, 6-9 (1917.10.5)
内容: 三、革命より階級戦へ 四、労働問題と露國革命
- (訳) 「熊狩の話 (上)」トルストイ作

新國民 26 卷 1 号, 7-11 (1917.10.5)

- * 「露國革命の意義 (三) (時論)」

教育時論 1170 号, 9-11 (1917.10.15)

内容: 五、露國革命と近代思想

- (訳) 『人は何によって生きるか 外一篇』(トルストイ小話文庫 第五編)

東京 新潮社 1917.10.20 [1], [1], 121p 15 cm

内容: 解題 (p.1)、目次 (p.1)、人は何によって生きるか (pp.1-87)、神は眞實を見給ふされど待ち給ふ (pp.89-121)

- * 「露國革命の意義 (四) (時論)」

教育時論 1171 号, 7-10 (1917.10.25)

内容: 六、露都文學者と革命 七、露國革命と國民性

- * 「トルストイ出現當時の露西亞文壇」

トルストイ研究 2 卷 11 号, 2-7 (1917.11.1)

- * 「『生ける屍』に就いて (上)」

讀賣新聞 (朝) 14571 号, 7 (1917.11.2)

- * 「『生ける屍』に就いて (下)」

讀賣新聞 (朝) 14572 号, 7 (1917.11.3)

- * 「露國革命の意義 (五・完) (時論)」

教育時論 1172 号, 5-8 (1917.11.5)

内容: 八、新露國の創造

- (訳) 「熊狩の話 (下)」トルストイ作

新國民 26 卷 2 号, 7-11 (1917.11.5)

- * 「露西亞文學講話」(佐藤義亮編『新文學百科精講』東京 新潮社

1917.11.25 所収 pp.403-468)

内容: 一 國民文學の樹立、二 社會的傾向、三 自然主義—虛無主義、四 愛他主義—宗教的傾向、五 最近文壇の概観、六 象徵主義、神秘主義、七 象徵主義以外の諸派、八 波蘭文學の一瞥

(注) この『新文學百科精講』の標題紙には、生田長江、昇曙夢、野上白川、相馬御風、嶋村抱月、森田草平共述とあり。大正 3 (1914) 年 4 月 20 日刊『新文學百科精講 前編・後編』を改編したもの。

のち、『近代文藝十二講』(生田長江、野上白川、昇曙夢、森田草平共著 東京 新潮社 1921.8.18)に収録。のち、新潮文庫(1933.9.27)

* 「露國及び露國民の運命」

新日本 7巻13号,36-41 (1917.12.1)

(訳) 「エルマーク(短篇)(杜翁作品號)」トルストイ著

トルストイ研究 2巻12号,2-8 (1917.12.1)

* 「大正六年文藝界の事業・作品・人」[アンケート]

早稲田文學(第二次)145号,35 (1917.12.1)

(訳) 「野猪狩と雉子射ち」トルストイ作

新國民 26巻3号,10-14 (1917.12.5)

内容:(一)プーリカ、(二)プーリカと野猪、(三)雉子

* 『トルストイ十二講』(思想・文藝講話叢書 15)東京 新潮社

1917.12.10 8,466,6p 肖像 21cm

(注)叢書名は『新潮社100年図書総目録』による。

内容:序(p.1)、目次(pp.2-8)、第一講 その出生より結婚まで(pp.1-35) 一、少年時代・青年時代 二、高架索とセバストポオリ 三、ツルゲエネフとトルストイ 四、外遊-教育事業、第二講 藝術家として、宗教家として(pp.37-71) 一、藝術的活動の高潮期 二、轉機 三、宗教的活動、第三講 晩年の活動=その死(pp.73-121) 一、世界精神界の王者 二、飢民救助とゾホボル教徒の援助 三、晩年の苦悶-家出-終焉、第四講 トルストイの人及び思想概観(pp.123-167) 一、人としてのトルストイ 二、理性と愛 三、理性と愛(2) 四、死生観、第五講 トルストイの宗教(pp.169-211) 一、トルストイの宗教観 二、トルストイの教義 三、教會基督教に對する非難、第六講 社會改良家としてのトルストイ(pp.213-252) 一、貧民救濟事業、二、慈善の矛盾 三、金錢の否定 四、トルストイの革命非難 五、汎労働主義、第七講 トルストイの科學論及び藝術論(pp.253-293) 一、眞の科學、眞の藝術 二、藝術とは何ぞや 三、宗教的藝術と普遍的藝術 四、シエクスピイヤ

論、第八講 トルストイの教育觀及び男女觀 (pp.295-329) 一、トルストイの教育觀 二、トルストイの男女觀、第九講 初期の作品 (pp.331-367) 一、「幼年・少年」より「コサック」まで 二、「セヴストポオリ」より「結婚の幸福」まで、第十講 「戦争と平和」と「アンナ・カレニナ」 (pp.369-412) 一、「戦争と平和」 二、「アンナ・カレニナ」、第十一講 晩年の作 (pp.413-441) 一、「死」の問題を取扱へる二作品 二、「クロイツェル・ソナタ」と「復活」三、発表せられたる遺稿、第十二講 通俗物語と戯曲 (pp.443-466) 一、通俗物語 二、戯曲 三、トルストイの藝術の特徴 トルストイ年譜 (pp.1-6)

* 「露國中心思想の激動」

中外 1巻3号, 58-61 (1917.12.10)

* 「露國及露國民の運命」昇直隆著

正教時報 6巻24号, 11-20 (1917.12.20)

* 『露國革命と社會運動』 東京 國民書院 1917.12.25 4, 4, 282p 図版 20 cm

内容：序 (pp.1-4)、目次 (pp.1-4)、一 舊露西亞より新露西亞へ (pp.3-44)、二 スラヴ主義と西歐主義 (pp.45-76)、三 農奴解放と其結果 (pp.77-96)、四 虚無主義より革命まで (pp.97-135)、五 露國革命の意義及真相 (pp.136-183)、六 露國社會政治運動の分野 (pp.184-205)、七 露國及び露國民の運命 (pp.206-221)、附録 ロマノフ王朝没落の悲劇 (pp.223-282)

(注) 序文に「附録「ロマノフ王朝没落の悲劇」は、曾て中央公論に掲載したものであるが、露國革命の裏面史として、本書の了解に資する所が多いと思ふから、其後傳聞せる材料をも新たに追補して茲に再録することにした。」とある。

大正7 (1918) 年

(講演) 『ロマノフ王朝倒壊事情』 36丁；28cm. 謄写

東洋文庫 [11162] (のデータによる)

（注）刊記は無いとのこと。しかし、本文の初めの方に「露西亞ノ革命ニ就テハ実ハモウ此前私ハ『露西亞革命ト社会運動』ト云フ本ヲ作りマシテ自分ノ考タケハ述ヘテアルノテアリマス（後略）」とある。『露西亞革命ト社会運動』というのは1917年12月に國民書院から刊行された『露國革命と社會運動』であると考えられるので1918年の始めに置いた。また、標題紙に「第一回」とあるが「第二回」は不明である。

* 「露西亞人の極端性（世界各國弱點の究明）」

中外 2巻1号, 421-432 (1918.1.1)

内容：一 現世紀の謎、二 極端より極端へ、三 自然の奴隷、四 二重の影響、五 不思議な矛盾、六 二大傾向と三極端、七 理想と現實との隔離、八 オプロモフ主義、九 文明史上の孤兒

* 「ロシア國民と其國民性」

第三帝國 91号, 73 (1918.1.10)

* 「芳情録」

第三帝國 91号, 155 (1918.1.10)

（注）石田友治氏に対する言葉。

* 「ロシア國民と其國民性（前承）」

第三帝國 92号, 39 (1918.2.10)

* 「杜翁研究の新材料 トルストイの書簡」

新小説 23年3号, 73-94 (1918.3.1)

(訳) 「エフシナ姫 一～二（露國高架索の傳説）（文苑）」

新人 19巻3号 (212号), 97-109 (1918.3.1)

* 「ドストエーフスキイの地位、特質、影響（ドストイエフスキイ號）」

トルストイ研究 3巻3号, 2-6 (1918.3.1)

* 「露國革命と智識階級」

露西亞評論 1巻1号, 40-51 (1918.3.1)

(訳) 「笑ひ（一）（現代世界の作家）」アルツイバーセフ作

週（週報社）2年13号, 252-253 (1918.3.30)

連載完結後、『露西亞現代文豪傑作集 第二編 クープリン・アルツイバァセフ傑作集』（東京 大倉書店 1920.10.5）に収録。

- * 「露西亞文學の過去及將來（露國革命の現状と前途）」
新公論 33 卷 4 号, 75-82 (1918.4.1)
- * 「花の野とコザック（露西亞）（花の趣味と各國民性）」
新小説 23 年 4 号, 76-80 (1918.4.1)
- * 「露國近代思潮の出發點」
新人 19 卷 4 号 (213 号), 33-46 (1918.4.1)
(注) 末尾に（『露國近代思潮の發展』より）とある。
- (訳) 「エフシナ姫 三～五（露國高架索の傳説）（文苑）」
新人 19 卷 4 号 (213 号), 89-95 (1918.4.1)
- * 「文章を學ぶ青年に與ふる「座右銘」」[アンケート]
中央文學 2 年 4 号, 8-9 (1918.4.1)

以下、全文を掲げる。

「私は曾てトルストイが、文章に志せる一青年に與えた教訓を我が青年諸君の座右に供したい。それはかういふ語である。『作物の事象を徒らに自己流の考へで折つたり、曲げたりしてはならぬ。可い加減な技功によつて、物語の自然を剪裁したり毀損したりしてはならぬ。たとへ物語が何所へ君を引張つて行かうと、君は其の跡に隨いて行き給へ。』」

- * 「環境に支配さるゝ露國」
東方時論 3 卷 4 号, 71-73 (1918.4.1)
(注) 卷末に（文責在記者）とあり
- (訳) 「藝術其他に就いての考察—トルストイの日記の一節」
トルストイ研究 3 卷 4 号, 28-31 (1918.4.1)
- * 「露西亞文學と民本主義思想」
文章世界 13 卷 4 号, 245-257 (1918.4.1)
- (訳) 「笑ひ（二）（現代世界の作家）」アルツイバーセフ作
週（週報社）2 年 14 号, 272-273 (1918.4.6)
- (訳) 「笑ひ（三）（現代世界の作家）」アルツイバーセフ作
週（週報社）2 年 15 号, 292-293 (1918.4.13)
- (校閲) 『露語讀本 原文・註釋・辭彙』リヨフ・トルストイ著 松本苦味編

東京 大倉書店 1918.4.15 100p 20 cm

- * 「琉球文學と南國情調（一）（國民文學）」

國民新聞 9408号,3 (1918.4.17)

- (訳) 「笑ひ（四・完）（現代世界の作家）」アルツィバーセフ作

週（週報社）2年16号,312-313 (1918.4.20)

- * 「琉球文學と南國情調（二・完）（國民文學）」

國民新聞 9415号,3 (1918.4.24)

- * 「レーニンとトロツキイを論じて露國の將來に及ぶ」

新公論 33卷5号,44-55 (1918.5.1)

- * 「露國大學生と社會運動」

東方時論 3年5号,69-83 (1918.5.1)

内容：一、大學生運動の發端 二、モスクワ大學と同盟會議 三、知識階級各派の活動 四、三十大學の同盟休校 五、大學騒動より政治運動 六、『自由聯盟』と革命の先驅 七、地方知識階級と政治問題 八、革命前の空氣

のち、「露國大學生と革新運動」と改題、一部修正し「革新運動」創刊号（1919.6.1）に再録。

- * 「露西亞思想の虛無主義時代（露西亞思想號）」

トルストイ研究 3卷5号,2-7 (1918.5.1)

- (抄訳) 『トルストイ日記』（人と藝術叢書 第2編）東京 新潮社 1918.5.20

3, 232p 16 cm

内容：序（昇曙夢 pp.1-3）、1895年（pp.3-17）、1896年（pp.18-80）、1897年（pp.81-153）、1898年（pp.154-214）、1899年（pp.215-232）

- * 『ベートル 全』（英傑傳叢書 第五編）東京 實業之日本社 1918.5.20

5, [3], 412p 肖像 図版 22 cm

奥付の書名：『ベートル大帝』

内容：序（pp.1-5）目次（pp.[1]-[3]）前編 一、序説（pp.1-15）二、大帝の幼年時代（pp.16-26）三、王位繼承の争ひ（pp.27-42）四、ソフィヤ攝政の初期（pp.43-54）五、ソフィヤの末路（pp.55-72）六、大帝の修業時代（pp.73-90）七、アゾフ遠征（pp.91-105）八、大帝

の外遊時代 (pp.106-147) 九、革新の第一歩 (pp.148-171) 十、不平の徴候 (pp.172-181) 十一、禁衛軍の叛亂 (pp.182-195) 十二、東南の擾亂 (pp.196-213) 十三、薄命の王子アレクセイ (pp.214-243) 後編 一、北方戦争前の外交関係 (pp.244-259) 二、ナルワ役より新都建設まで (pp.260-280) 三、首領マゼーバの異圖 (pp.281-295) 四、ポルタワ戦争と其結果 (pp.296-310) 五、亞細亞に對する關係 (pp.311-321) 六、軍隊と社會的改造 (pp.322-328) 七、行政機關の新設 (pp.329-350) 八、教會制度の改革 (pp.351-364) 九、國民教化の設備 (pp.365-380) 十、大帝の同勞者 (pp.381-396) 十一、大帝の性格 (pp.397-408) 十二、結論 (pp.409-412)

* 「余の最も好む土地と花と人と」[アンケート]

文章俱樂部 3年6号, 26 (1918.6.1)

* 「最近露國文壇の問題—藝術と生活と宗教と」

讀賣新聞(朝) 14789号, 7 (1918.6.8)

* 「最近露國文壇の問題—藝術と生活と宗教と(二)」

讀賣新聞(朝) 14792号, 7 (1918.6.11)

* 「最近露國文壇の問題—藝術と生活と宗教と(三)」

讀賣新聞(朝) 14793号, 7 (1918.6.12)

* 「最近露國文壇の問題—藝術と生活と宗教と(四・完)」

讀賣新聞(朝) 14794号, 7 (1918.6.13)

(訳) 『ドストエーフスキイ全集(2)』東京 新潮社 1918.6.20 7, 2, 728p

17 cm (注) 卷頭に故ニコライ大主教への献辞あり。

内容：序(昇曙夢著 pp.1-7)、凡例(pp.1-2)、虐げられし人々(pp.1-728)

* 「魅惑の一夜 露國民謡を聽いて(文藝)」

時事新報 12527号, 10 (1918.6.20)

* 「牡鹿半島から金華山(夏の旅行地の感想)」[アンケート]

新潮 29卷2号, 69 (1918.8.1)

* 「ロシヤ・マルクス派の歴史的意義」

太陽 24卷10号, 108-113 (1918.8.1)

- * 「露西亞田園文明の輓歌－露國近代化發展の特質」
露西亞評論 1 卷 6 号, 73-78 (1918.8.1)
- * 「『虐げられし人々』に就いて (第二ドストイェフスキイ號)」
トルストイ研究 3 卷 9 号, 93 (1918.9.1)
- * 「序」(アルフレッド・ヘットネル著 山元繁訳『露國及露國民の真相』
東京 國民書院 1918.9.10 所収 pp.1-2)
- * 『露國近代文藝思想史』東京 大倉書店 1918.9.12 4, 4, 499p 20 cm
内容: 序 (pp.1-4) 目次 (pp.1-4) 一、序説 (pp.1-58) 其一 近代露
西亞文學の特質 (一、發達の要件 二、ロシヤ文學の特質 三、寫
實主義と其影響) 其二 露西亞文學の民主的意義 (一、自由開放の
性質 二、批評家と民主的理想 三、作家と民主的理想 四、社會
的戰鬪の機關 五、西歐の影響と農民の理想 六、革命と文學) 其三
露西亞文學の社會的意義 (一、ロシヤ精神の中樞的現象 二、
文學と實社會との交渉 三、近代ロシヤ文學史の特質 四、露國
近代文藝思潮の時代別) 二、露國近代思潮の黎明期 (四十年代)
(pp.59-120) (一、學會の勃興 二、理想主義者の群 三、ロシヤ・
ヘーゲリアン 四、ロシヤ思想運動の特色 五、ヘルツェン 六、
『誰が罪』と『餘計者』七、スラヴ派と其主張 八、西歐派と其主
張 九、文壇の明星 十、ペリンスキイ) 三、反動と檢閲の魔の
手 (1848-1855) (pp.121-135) (一、檢閲の壓迫 二、ペトラセーフ
スキイ事件 三、厭世的情調と『餘計者』) 四、露西亞文化の蜜月
(1855-1861) (pp.136-206) (一、改革の機運 二、運動の性質及び方
向 三、前期の支配精神 四、ヘルツェンとスラヴ派の活動 五、
雜誌界の趨勢 六、譴責期の文學 七、時代の特徴 八、チュルヌ
イセーフスキイ 九、小説『何を爲すべきや』十、ドブロリユーボ
フ 十一、諸文豪の活動と社會的色彩 十二、所謂四十年代派の特
質 十三、ツルゲーニェフ 十四、ゴンチャロフ 十五、オスト
ローフスキイ 十六、當代の詩人) 五、虛無主義時代 (六十年代の
前半期) (pp.207-231) (一、『父』と『子』の闘ひ 二、四十年代
と六十年代 三、嚴肅主義と官能主義 四、ピサリョフ 五、虛無

主義と平民作家) 六、他愛主義と民情派 (七十年代) (pp.232-266) (一、『農民の中へ』の運動 二、サルツイコフ・シチェドリン 三、ドストエーフスキイ 四、トルストイ 五、ミハイロフスキイ 六、民情派の運動 七、トルストイと民情派 八、當代の作家 九、當代の詩壇) 七、幻滅と哀愁の時代 (八十年代) (pp.267-296) (一、反動と幻影破壊 二、ポベドノスツェフ 三、時代の支配情調 四、チェーホフ 五、『トルストイ主義』の傳播 六、田園文明より都會文明へ 七、田園文明の挽歌 八、當代の詩壇と闊秀作家) 八、ロシヤ・マルクス派の時代 (九十年代) (pp.297-332) (一、社會的勃興 二、ロシヤ・マルクス主義 三、プレハーノフ其他の思想家 四、マルクス派の歴史的意義 五、チリコフとウエレサーエフ 六、ゴーリキイ 七、マルクス主義とゴーリキイ) 九、露西亞軌近派の時代 (現代) (pp.333-374) (一、デカダンの出現 二、デカダンよりシムボリズムへ 三、ロシヤ象徴派の特質 四、象徴派の詩人 五、社會主義化されたニイチェ 六、アンドレーエフ 七、其他の作家) 十、露西亞智識階級の運動 (pp.375-398) (一、獨特の社會現象 二、不斷の反抗 三、開放運動の時代 四、虛無主義時代 五、階級分裂の時代 六、アンチ・ブルジョアの運動 七、勞働階級の搦頭 八、智識階級の凋落) 十一、露國近代哲學の主潮 (pp.399-434) (一、沿革と特質 二、ヘーゲル派 三、新カント派 四、唯我獨存主義 五、新實證論 六、直觀主義) 十二、最近の文藝思想問題 (pp.435-499) (一、露國文壇の兩性問題 二、求神者と求神論の問題 三、沈黙の宗教 四、藝術と生活と宗教と 五、東か西かの問題 六、新人道主義の提唱 七、歐洲戰爭と露西亞文壇)

* 『露國及露國民 [改版]』東京 忠文堂書店 1918.9.25 6, 257p 20 cm
奥付の著者表示：昇直隆著

(注) 銀座書房 1915.6 刊の改版

内容：序 (pp.1-4) 目次 (pp.5-6) 一、序論 露西亞と歐羅巴 (pp.2-19) 二、露西亞の國土と民族 (pp.20-46) 三、大露西亞の自然と人 (pp.47-60) 四、露西亞文學と國民性 (pp.61-90) 五、露人の悲劇

的性質（pp.91-109）六、露國々民生活の特徴及背景（pp.110-125）七、露國に於ける貴族と農民（pp.126-145）八、哥薩克氣質（pp.146-170）九、露西亞婦人（pp.171-200）十、露國の青年學生（pp.201-221）十一、露國の知識階級（pp.222-238）十二、露國民の過去及將來（pp.239-257）

（訳）「藝術とは（「トルストイの日記」より）（扉）」

トルストイ研究 3巻10号,1（1918.10.1）

* 「真に露西亞と提携せよ（我國の對露時局所感八篇）」 曙夢生

露西亞評論 1巻8号,39-40（1918.10.1）

（注）「曙夢生」が「曙夢」であるか不明であるが採録しておく。

（訳編）『ろしあお伽集』（露國民衆文學全書 第一編）東京 大倉書店

1918.10.13 2,3,370p 函版 20cm

内容：はしがき（pp.1-2）、目次（pp.1-3）、一 百姓と熊と狐（pp.1-9）、二 果報者（pp.10-17）、三 少女と盜賊（pp.18-42）、四 馬鹿の上の馬鹿（pp.43-53）、五 黄金の魚（pp.54-61）、六 イワンの馬鹿（pp.62-73）、七 銅の國、銀の國、金の國（pp.74-86）、八 寶の釜（pp.87-96）、九 夢判斷（pp.97-111）、十 形見の人形（pp.112-137）、十一 深山の妖姫（pp.138-149）、十二 貧乏神（pp.150-166）、十三 捨兒の王子（pp.167-175）、十四 狐長者（pp.176-194）、十五 變通自在（pp.195-209）、十六 一つ眼婆（pp.210-216）、十七 和尚と下男（pp.217-227）、十八 正直者と横着者（pp.228-241）、十九 蛇退治（pp.242-252）、廿 人眞似爺さん（pp.253-260）、廿一 七人兄弟（pp.261-269）、廿二 口は禍ひの門（pp.270-278）、廿三 奇抜な交換（pp.279-290）、廿四 獵夫の出世（pp.291-343）、廿五 犬と啄木鳥（pp.344-351）、廿六 飛行船（pp.352-369）

（訳）「思索三つ（「トルストイの日記」より）（扉）」

トルストイ研究 3巻11号,1（1918.11.1）

* 「露西亞藝術觀の發展（其一）ベリンスキイの藝術觀」

トルストイ研究 3巻11号,2-9（1918.11.1）

* 「露西亞繪畫の發達」 露西亞評論 1巻9号,19-29（1918.11.1）

(談) 「ゴルキイ文相就任は何の不思議もない」

時事新報 12667号, (1918.11.6)

* 「西伯利詩人 オムレーフスキイ (一)」

讀賣新聞 (朝) 14953号, 7 (1918.11.19)

* 「西伯利詩人 オムレーフスキイ (二)」

讀賣新聞 (朝) 14954号, 7 (1918.11.20)

* 「西伯利詩人 オムレーフスキイ (三)」

讀賣新聞 (朝) 14955号, 7 (1918.11.21)

* 「西伯利詩人 オムレーフスキイ (四)」

讀賣新聞 (朝) 14956号, 7 (1918.11.22)

* 「西伯利詩人 オムレーフスキイ (五)」

讀賣新聞 (朝) 14957号, 7 (1918.11.23)

(監修) 「トルストイ全集 (全13巻)」

監修：内田魯庵、片上伸、昇曙夢

杜翁全集刊行會刊行

発行所：東京 春秋社 蔵版

(注) 以下、全巻の発行年月日を掲げておく。

第一巻 大正7年11月20日

(編集兼發行人：杜翁全集刊行會代表 神田豊穂)

第二巻 大正7年12月20日 (著作者：植村宗一)

第三巻 大正8年01月25日 (著作者：植村宗一)

第四巻 大正8年03月30日 (著作者：植村宗一)

第五巻 大正8年02月28日 (著作者：植村宗一)

第六巻 大正8年04月30日 (著作者：植村宗一)

第七巻 大正8年05月28日 (著作者：植村宗一)

第八巻 大正8年06月30日 (著作者：植村宗一)

第九巻 大正8年07月30日

(編集兼發行人：杜翁全集刊行會代表 神田豊穂)

第十巻 大正8年12月15日 (著作者：植村宗一)

第十一巻 大正8年08月31日 (著作者：植村宗一)

第十二卷 大正8年10月18日（著作者：植村宗一）

第十三卷 大正8年12月21日（著作者：植村宗一）

- * 「露西亞藝術觀の發展（其二）チェルヌイセーフスキイの藝術觀」
トルストイ研究 3卷12号, 55-60 (1918.12.1)
- * 「ゴリキイの友」 露西亞評論 1卷10号, 95-98 (1918.12.1)
- (訳編) 『ろしあ傳説集』（露國民衆文學全書 第二編）東京 大倉書店
1918.12.15 6, 2, 350p 函版 20cm
内容：序 (pp.1-6)、目次 (pp.1-2)、一 スウヤトゴル (pp.1-9)、二
イリヤ・ムウロメツ (pp.10-43)、三 ドブルイニヤ・ニキイティチ
(pp.44-74)、四 アリヨーシャ・ポポーウィチ (pp.75-106)、五 サツ
コとワーシカ (pp.107-138)、六 ウォリガとミクーラ (pp.139-151)、
七 スフマン・オディフマンチェウイチ (pp.152-159)、八 バルダ
ク・ポリシェウイチ (pp.160-182)、九 勇士の最期 (pp.183-193)、
十 イワン雷帝 (pp.194-203)、十一 エルマーク、(pp.204-226) 附録
高架索傳説 — エフシナ姫 (pp.227-266)、二 タマーラ女王 (pp.267-
323)、三 鷲岩 (pp.324-335)、附録 芬蘭傳説 — 黒乙女 (pp.337-350)
- * 「露西亞宗教思想の一面」 昇直陸著
正教時報 7卷24号, 3-7 (1918.12.20)

大正8 (1919) 年

- * 「新露西亞文學と農民問題—露國知識階級の悲劇的エピソード（世界の
再造と平和後の新現象）」
新公論 34卷1号, 107-116 (1919.1.1)
- * 「チェーホフの女主人公（私の好きな芝居の女）」
大觀 2卷1号, 147-148 (1919.1.1)
- * 「ツルゲーニエフの地位、特質、影響（ツルゲエネフ號）」
トルストイ研究 4卷1号, 2-9 (1919.1.1)
- (訳) 「夕（ツルゲエネフ處女作の詩）（ツルゲエネフ號）」
トルストイ研究 4卷1号, 57 (1919.1.1)
- * 「露西亞の音楽（一）」

- 露西亞評論 2 卷 1 号, 30-39 (1919.1.1)
- * 「露西亞の舞踊」 新時代 3 卷 2 号, 130-137 (1919.2.1)
- * 「露西亞演劇の發達と特質」
東方時論 4 卷 2 号, 100-109 (1919.2.1)
- (訳) 「露國物語 百姓と王女 [一] (童話)」
教育時論 1219 号, 36-38 (1919.2.25)
- * 「露西亞の音樂 (承前・完)」
露西亞評論 2 年 3 号, 28-34 (1919.3.1)
- * 「新しき豫言者 (露國の近き將來如何)」 [アンケート]
露西亞評論 2 年 3 号, 47-48 (1919.3.1)
- (訳) 「露國物語 百姓と王女 (二・完) (童話)」
教育時論 1220 号, 36-38 (1919.3.5)
- * 「西伯利の愛國詩人 (詩化されたる西伯利)」
開拓者 14 卷 3 号, 143-150 (1919.3.12)
のち、『西伯利大觀 全』(開拓社 1919.5.30) に収録。
また、『藝術の勝利—露西亞研究』(東京 日本評論社出版部
1921.10.15) に収録。
- (訳) 「露國物語 ダニールと白鳥姫 (一) (童話)」
教育時論 1221 号, 31-33 (1919.3.15)
- (訳) 「露國物語 ダニールと白鳥姫 (二・完) (童話)」
教育時論 1222 号, 37-39 (1919.3.25)
- * 「露西亞に於ける教育の過去及現在」
開拓者 14 卷 4 号, 26-41 (1919.4.1)
- * 「余の愛讀書と其れより受けたる感銘」 [アンケート]
中央文學 3 年 4 号, 34 (1919.4.1)

以下、全文を掲げる。

「新しい人生觀と世界觀とを私の心に啓示して呉れた點に於て、聖書は先づ第一に數ふべき書の一つです。次にドストエーフスキイとトルストイとの作物は何に限らず、人間性と人生問題に就いて深く廣い考察と理解とを私に與へて呉れました。それから思想問題に就い

てはメレジュコーフスキイの諸論文から學ぶ處が多うございました。
以上]

- * 「露國革命の二週（ママ）年（革命の慘状と其の主因）」

中外新論 3卷4号, 74-90 (1919.4.1)

のち、「労働文學」1卷3号（1919.5.1）に一部分再録される。

また、『露國改造の悲劇』（東京 豫章堂 1920.4.15）に収録。

- * 「ビザンチニズムかボリセウイズムか—露國民の理想を論じて其將來に及ぶ」

我等 1卷4号, 62-68 (1919.4.1)

のち、『露國改造の悲劇』（東京 豫章堂 1920.4.15）に収録。

- * 『日本百科大辭典 第十卷』東京 日本百科大辭典完成會 1919.4.26

654p, 314p 27 cm

執筆項目：ロシアの文學（pp.368-369）

（未見）「文藝と國民性の根本問題」

藝術公論（大正8年4月11日～5月10日）

（注）早稻田文學（第二次）163号の「新聞雜誌文學一覽」（自四月十一日至五月十日）に記載されているが所蔵館不明のため未見。

- * 「革命前の露西亞の資本主義（最近思潮）」

労働文學 1卷3号, 11 (1919.5.1)

（注）「中外新論」3卷4号（1919.4.1）掲載のものを部分的に再録。

- * 「西伯利の愛國詩人（詩化されたる西伯利）」（『西伯利大觀 全』開拓社

1919.5.30 所収 pp.143-150）

（注）この『西伯利大觀 全』は雑誌「開拓者」14卷3号（1919.3.12）をそのまま単行本化したものと思われる。

- * 「露國大學生と革新運動」

革新運動 創刊号, 5-19 (1919.6.1)

のち、『露國改造の悲劇』（東京 豫章堂 1920.4.15）に収録。

（訳）「マルコとワシカ（一～四）」

話の世界 創刊号, 36-42 (1919.6.1)

- * 「余の文章が始めて活字となりし時」〔アンケート〕

文章俱樂部 4年6号, 51-52 (1919.6.1)

* 「トルストイとチェホフ」

露西亞評論 2年6号, 21-24 (1919.6.1)

(訳編) 『ろしあ童話集』(露國民衆文學全書 第三編) 東京 大倉書店 1919.6.4

3. 3, 358p 図版 19 cm

内容：序 (昇曙夢著 pp.1-3)、目次 (pp.1-3)、一 トルストイ物語 (pp.1-52) 一 蛇の頭と尻尾、二 細い絲、三 遺産の分配、四 猿、五 猿と豌豆、六 乳牛、七 鴨と月、八 埃を浴びた狼、九 穀倉の鼠、一〇 一番美味しい梨、一一 鷹と鶏、一二 山狗と象、一三 鷺と魚と蟹、一四 水神と眞珠、一五 盲人と牛乳、一六 狼と弓、一七 網にかゝった鳥、一八 王様と鷹、一九 王様と象、二〇 悪の出所、二一 狼と獵師、二二 二人の百姓、二三 百姓と馬、二四 二頭の馬、二五 斧と鋸、二六 犬と料理人、二七 兎と獵犬、二八 榎の樹と胡桃の林、二九 牝鶏と雛、三〇 鶉とその雌、三一 牝牛と山羊、三二 狐の尻尾 二 クルイロフ物語 (pp.53-282) 一 豚、二 豚と榎の樹、三 驢馬と鷺、四 パルナス山、五 狐と驢馬、六 獅子の末路、七 狼と鶴、八 狼と小羊、九 狼と猫、一〇 犬小舎の狼、一一 狼と郭公、一二 狼と牧者、一三 仙人と熊、一四 好奇な熊、一五 蜜蜂の番をした熊、一六 猿と眼鏡、一七 猿の群、一八 猿、一九 鏡と猿、二〇 狼と狐、二一 鴉と狐、二二 狐と野鼠、二三 狐、二四 獅子と狐、二五 狐と葡萄、二六 獅子と羚羊と狐、二七 善良な狐、二八 二匹の犬、二九 車の行列、三〇 猛魚と猫、三一 椋鳥、三二 蛙と牛、三三 四十雀、三四 鷺鳥の群、三五 大砲と帆、三六 犬と馬、三七 瀧と泉、三八 木、三九 蟻、四〇 榎と蘆、四一 鷺と土龍、四二 獅子と鼠、四三 鷺と蜜蜂、四四 獲物の分配、四五 獅子と狼、四六 猫と鷺、四七 獅子と蚊、四八 鼯鼠と鼠、四九 通行人と犬、五〇 蝨と蟻、五一 犬の友誼、五二 デミヤンのお吸物、五三 二つの樽、五四 トリーシカの外套、五五 嘘言者、五六 好奇者、五七 猫と料理人、五八 三人の男、五九 不仕合せな百姓、六〇 配當、六一 白鳥と猛魚と蝦、六二 四部合

奏、六三 象と小狗、六四 栗鼠と鶉、六五 手箱、六六 雨雲、
 六七 金貨、六八 貴人、六九 栗鼠、七〇 百姓と奉公人 七一
 二人の少年、七二 粉挽爺、七三 狩に出た兎、七四 百姓と蛇、
 七五 金翅雀と鳩、七六 郭公と鶏、七七 郭公と鳩、七八 池と
 河、七九 魚の舞踏、八〇 鮎、八一 蛙の王様、八二 二羽の鳩、
 八三 慾張者と牝鶏、八四 鶏と眞珠、八五 鴉と鶏、八六 建
 築家の狐、八七 鼠の會議、八八 預言者、八九 野獸共の疫病、
 九〇 小川、九一 鴉の子、九二 音楽家、九三 草花、九四 森
 と火、九五 多妻者、九六 樽、九七 主人と鼠、九八 狼の親子、
 九九 牝鹿と行者、一〇〇 犬、一〇一 胤、一〇二 驢馬、三
 イズマイロフ物語 (pp.283-314) 一 象と犬、二 猫と鼠、三 二
 疋の海老、四 二人の百姓と雲、五 穴藏の猫、六 和尚と百姓、
 七 馬鹿のヒラーツカ、八 二人の女友達、九 拳銃 四 ヘムニ
 イツェル物語 (pp.315-342) 一 時計の針、二 妖怪、三 狼と犬、
 四 哲學者、五 鶯と烏、六 馬と驢、七 縛られた犬、八 鶯と
 金翅雀、九 蠕虫、一〇 二人の隣人、一一 親友、一二 老人と
 死神、一三 熊と狐と狼、一四 犬とその影 五 ドミトリイエフ
 物語 (pp.343-358) 一 犬と乞食、二 人間と馬、三 小銃と兎、
 四 馬車馬、五 鳩の歎き、六 鶯と蛇、七 白鳥と嫩鳥、八 醫
 者の言、九 憐み、一〇 狐の説教

* 「最近の露國文學と其の社會狀態 一 露西亞文學の回轉機」

大阪毎日新聞 12930号,1 (1919.6.30)

のち、完結後「ボリシェウイキイと最近露國文壇」と改題し、『露國
 改造の悲劇』（東京 豫章堂 1920.4.15）に収録。

* 「最近の露國文學と其の社會狀態 二 將來の豫測」

大阪毎日新聞 12931号,1 (1919.7.1)

* 「ゴーリキイの文學的使命」

革新運動 1卷2号,54-59 (1919.7.1)

(注) 末尾に（未完）とある。しかし、内容は「日本及日本人」689
 号（1916.9.20）と同じである。

- * 「來るべき露國文學 (一)」
東京日日新聞 15345 号, 5 (1919.7.1)
- (訳) 「マルコとワシカ (五～七・完)」
話の世界 1 卷 2 号, 27-32 (1919.7.1)
- * 「最近の露國文學と其の社會狀態 三 大戦時の露國文壇」
大阪毎日新聞 12932 号, 1 (1919.7.2)
- * 「最近の露國文學と其の社會狀態 四 歐洲大戦の影響」
大阪毎日新聞 12933 号, 1 (1919.7.3)
- * 「來るべき露國文學 (二)」
東京日日新聞 15347 号, 5 (1919.7.3)
- * 「最近の露國文學と其の社會狀態 五 革命の蜜月」
大阪毎日新聞 12934 号, 1 (1919.7.4)
- * 「最近の露國文學と其の社會狀態 六 文壇の反過激派熱」
大阪毎日新聞 12935 号, 1 (1919.7.5)
- * 「最近の露國文學と其の社會狀態 七 藝術界の恐慌」
大阪毎日新聞 12936 号, 1 (1919.7.6)
- * 「來るべき露國文學 (三)」
東京日日新聞 15350 号, 5 (1919.7.6)
- * 「最近の露國文學と其の社會狀態 八 過激派の文藝施設」
大阪毎日新聞 12937 号, 1 (1919.7.7)
- * 「最近の露國文學と其の社會狀態 九 新露西亞文學の萌芽 (上)」
大阪毎日新聞 12938 号, 1 (1919.7.8)
- * 「來るべき露國文學 (四)」
東京日日新聞 15352 号, 5 (1919.7.8)
- * 「最近の露國文學と其の社會狀態 十・完 新露西亞文學の萌芽 (下)」
大阪毎日新聞 12939 号, 1 (1919.7.9)
- * 「來るべき露國文學 (五)」
東京日日新聞 15353 号, 5 (1919.7.9)
- * 「來るべき露國文學 (六)」
東京日日新聞 15354 号, 7 (1919.7.10)

- * 「露西亞將來の禍根（オムスク政府承認に就て）」〔アンケート〕
日露實業新報 5巻7号,10 (1919.7.10)
- * 「來るべき露國文學（七）」
東京日日新聞 15355号,5 (1919.7.11)
- * 「來るべき露國文學（八）」
東京日日新聞 15356号,5 (1919.7.12)
- * 「來るべき露國文學（九）」
東京日日新聞 15357号,5 (1919.7.13)
- * 「來るべき露國文學（十・完）」
東京日日新聞 15358号,3 (1919.7.14)
- * 「象徴化された自然（露西亞文學に現はれた露西亞の自然、女性）」
露西亞評論 2年8号,45-46 (1919.8.1)
- (訳) 「革命の五日間（一）（創作）」エフイム・ゾーズリヤ作
大阪毎日新聞（夕）12971号,1 (1919.8.10)
連載完結後、『露國改造の悲劇 附・小説 革命の五日間』（東京
豫章堂 1920.4.15）に収録。
- (訳) 「革命の五日間（二）（創作）」エフイム・ゾーズリヤ作
大阪毎日新聞（夕）12972号,1 (1919.8.11)
- (訳) 「革命の五日間（三）（創作）」エフイム・ゾーズリヤ作
大阪毎日新聞（夕）12973号,1 (1919.8.12)
- (訳) 「革命の五日間（四）（創作）」エフイム・ゾーズリヤ作
大阪毎日新聞（夕）12974号,1 (1919.8.13)
- (訳) 「革命の五日間（五）（創作）」エフイム・ゾーズリヤ作
大阪毎日新聞（夕）12975号,1 (1919.8.14)
- (訳) 『トルストイ物語』（世界少年文學名作集 第二巻）トルストイ作
東京 家庭讀物刊行會 1919.8.15 6,4,431p 肖像 函版 19cm
内容：序（昇曙夢著 pp.1-6）、目次（pp.1-4）、一 お伽篇（pp.1-46）
二人兄弟（pp.2-7）、大僧正と強盜（pp.8-13）、國老アブドウール
（pp.14-16）、孝子の譽（pp.16-19）、王様と小屋（pp.19-21）、王様と
襯衣（pp.22-24）、親馬鹿（pp.25-30）、邪心の僕（pp.30-36）、黄金

と労働 (pp.37-42)、金髪王女 (pp.43-46) 二 物語篇 (pp.47-219)
 棄子 (pp.48-49)、農夫と胡瓜 (pp.49-51)、火事 (pp.51-54)、老
 馬 (pp.54-59)、乗馬の稽古 (pp.59-65)、柳 (pp.65-68)、プーリカ
 (pp.69-71)、プーリカと猪 (pp.71-76)、雉子 (pp.77-80)、ミリトン
 とプーリカ (pp.80-83)、龜 (pp.83-86)、プーリカと狼 (pp.86-91)、
 プーリカの災難 (pp.91-96)、プーリカとミリトンの最期 (pp.97-
 99)、野兎 (pp.100-103)、熊狩 (pp.104-123)、エルマークの遠征
 (pp.124-144)、カフカスの囚人 (pp.145-219) 三 民話篇 (pp.221-
 431) 神の眞と人の眞 (pp.222-244)、二人巡禮 (pp.245-298)、三つの
 眞理 (pp.299-361)、蠟燭 (pp.363-386)、禍のもと (pp.387-431)

(訳) 「革命の五日間 (六) (創作)」エフイム・ゾーズリヤ作

大阪毎日新聞 (夕) 12976号, 1 (1919.8.15)

(訳) 「革命の五日間 (七) (創作)」エフイム・ゾーズリヤ作

大阪毎日新聞 (夕) 12977号, 1 (1919.8.16)

(訳) 「革命の五日間 (八・完) (創作)」エフイム・ゾーズリヤ作

大阪毎日新聞 (夕) 12978号, 1 (1919.8.17)

* 「癩 (露西亞のお伽噺)」

おとぎの世界 1年6号, 60-63 (1919.9.1)

* 「馬鹿息子 (ロシアのお伽噺)」

少年世界 25巻9号, 26-29 (1919.9.1)

* 「一種皮肉なる現象 (文壇四十七家の都下新聞同盟休刊に對する感想)」

新潮 31巻3号, 34 (1919.9.1)

* 「雅號の由来」[アンケート]

中央文學 3年9号, 23 (1919.9.1)

以下、全文を掲げる。

「内村鑑三氏の「愛吟」の巻頭に、名は忘れましたが確か英國詩人の
 詩から「詩は英雄の朝の夢なり」といふ句が引いてありました、そ
 れに因んでつけたのが曙夢といふ譯です。」

* 「ロシア文學の社會主義的背景」

早稻田文學 (第二次) 166号, 2-16 (1919.9.1)

のち、『露國改造の悲劇』（東京 豫章堂 1920.4.15）に収録。

- * 「着陸の刹那の歓迎（ダンヌンチョ氏來朝の風聞に對して）」〔アンケート〕
新潮 31 卷 4 号, 26 (1919.10.1)

- * 「ロシヤ文學と社會改造運動」
文章世界 14 卷 10 号, 302-321 (1919.10.1)

のち、『露國改造の悲劇』（東京 豫章堂 1920.4.15）に収録。

- * 「びっくり試し（ロシヤお伽噺）」
おとぎの世界 1 年 8 号, 4-9 (1919.11.1)

- * 「アンドレーエフの藝術」
文章世界 14 卷 11 号, 113-120 (1919.11.1)

- * 「逝けるアンドレーエフのこと」
早稻田文學（第二次）168 号, 65-68 (1919.11.1)

（講演）「惱める露西亞一日日文藝講演會筆記一（一）」

東京日日新聞 15479 号, 5 (1919.11.16)

連載完結後『露國改造の悲劇』（東京 豫章堂 1920.4.15）に収録。

（講演）「惱める露西亞一日日文藝講演會筆記一（二）」

東京日日新聞 15481 号, 9 (1919.11.18)

（講演）「惱める露西亞一日日文藝講演會筆記一（三）」

東京日日新聞 15482 号, 5 (1919.11.19)

（講演）「惱める露西亞一日日文藝講演會筆記一（四）」

東京日日新聞 15485 号, 5 (1919.11.22)

（講演）「惱める露西亞一日日文藝講演會筆記一（五・完）」

東京日日新聞 15486 号, 9 (1919.11.23)

- * 「ボリス・ザイツェフ（近代文豪傳）」

文章俱樂部 4 年 12 号, 16-18 (1919.12.1)

（注）p.17 に「一節」（「靜かな曙」）の訳文あり。

大正 9（1920）年

（訳）「羊飼の娘（ロシヤ童話）」

おとぎの世界 2 年 1 号, 74-79 (1920.1.1)

(未見)「民衆の中へ—露西亞青年改造運動の一時代」

青年改造 創刊号, 18-26 (1920.1.1)

のち、「露西亞青年改造運動の一時代」として『露國改造の悲劇』
(東京 豫章堂 1920.4.15) に収録されたものか?

- * 「新時代の教育に任ずべき今後の教育者に與ふる言葉」[アンケート]
教育時論 1250号, 32 (1920.1.5)

(訳編)『ろしあ民謡集』(露國民衆文學全書 第四編) 東京 大倉書店

1920.1.17 4, 10, 2, 341p 図版 20 cm

内容: 序 (pp.1-4)、解説 (pp.1-10)、目次 (pp.1-2)、一 冬祭の歌
(pp.1-22)、二 クリスマス週間の歌 (pp.23-42)、三 圓舞の歌 (pp.43-
120)、四 春の歌 (pp.121-138)、五 婚禮の歌 (pp.139-152)、六 世
相の歌 (pp.153-192)、七 小供の歌 (pp.193-212)、八 哀歌 (pp.213-
228)、九 家庭生活の歌 (pp.229-237)、十 追善の歌 (pp.238-240)、
十一 勇士の歌 (pp.241-262)、十二 端唄 (pp.263-281)、十三 近代民
謡 (pp.282-332)、十四 ジブシイの唄 (pp.333-341)

(未見)(校閲)『チェホフ名作集』水谷勝譯 東京 天佑社 1920.2.15
6. 2, 346p 17 cm

- * 「クロボトキンの社會理想説 (クロボトキン思想研究)」
改造 2巻3号, 122-129 (1920.3.1)
- * 「人生の未來派 (最近來朝せる露國詩人ゴリツシュミット君)」
文章世界 15巻3号, 124-129 (1920.3.1)
のち、『藝術の勝利—露西亞研究』(東京 日本評論社出版部
1921.10.15) に収録
- * 「正教徒の對過激派運動」
正教時報 9巻3号, 3-4 (1920.3.15)
のち、「ポリシェウイキイと宗教運動の將來」と改題し、『露國改造
の悲劇』(東京 豫章堂 1920.4.15) に収録。
- * 「露西亞文學に現れたる女性 (附) 最近の婦人運動 (讀物)」
婦人畫報 170号, 6-11 (1920.4.1)
のち、一部変更して『藝術の勝利—露西亞研究』(東京 日本評論社

出版部 1921.10.15) に収録

- * 「露國改造の悲劇 附録・小説 革命の五日間」 東京 豫章堂
1920.4.15 3, 2, 342p 19 cm (注) 奥付の著者表示: 昇直隆
(注) 国立国会図書館本の奥付では、発行日は手書きで四月二十三日とある。
内容: 序 (pp.1-3)、目次 (pp.1-2)、露國革命の二週 (77) 年 (pp.1-32)、レーニンとトロツキイ (pp.33-54)、ポリシェウイキイと最近露國文壇 (pp.55-100)、ビザンチンズムかポリシェウイズムか (pp.101-116)、ポリシェウイキイと宗教運動の将来 (pp.117-124)、ポリシェウイズム批判 (pp.125-144)、悩める露西亞 (pp.145-171 末尾に1919年11月東京日日新聞文藝講演會講演筆記、とある)、ロシヤ文學と社會改造運動 (pp.172-202)、ロシヤ文學の社會主義的背景 (pp.203-225)、ロシヤ人道主義の發達 (pp.226-237)、ロシヤ青年改造運動の一時代 (pp.238-250)、露國大學生と革新運動 (pp.251-279)、革命文壇の双璧 (pp.280-304)、附録 小説 革命の五日間 (エフイム・ゾーズリヤ作 pp.305-341)
(注) 序の末尾に「卷末の附録小説『革命の五日間』はゾーズリヤなる作家が露都革命の印象を小説體に描いたもので、藝術としての價値は兎も角、珍しいもの、一つとして掲げておく」とある。
- (訳) 「クロポトキンの歐洲戰爭論」[クロポトキン著]
改造 2卷5号, 136-144 (1920.5.1)
- * 「ピアノを米櫃の代りに (かういふ芝居が見たい 一)」
新演藝 5卷5号, 10-13 (1920.5.1)
- * 「露西亞國民文學の研究 其一、露西亞のお伽噺に就いて」
新小説 25年5号, 11-16 (1920.5.1)
のち、『藝術の勝利—露西亞研究』(東京 日本評論社出版部 1921.10.15) に収録
- * 「外觀と内部 (日本住宅の改良したき點)」[アンケート]
中央美術 6卷5号, 119 (1920.5.1)
- * 「近代ロシヤ文豪評傳 (一) ニコライ・ゴーゴリ」

中央文學 4年5号, 24-29 (1920.5.1)

- (訳) 「夕」ツルゲエネフ作 (井上康文編『自選日本現代名詩集 附録 泰西名詩選』東京 春陽堂 1920.5.28 所収 後付 pp.37-38)
- * 「二つの運命 (ろしあお伽嘶)」
おとぎの世界 2年6号, 22-29 (1920.6.1)
- * 「露西亞國民文學の研究 其一、露西亞のお伽嘶に就いて (承前)」
新小説 25年6号, 1-7 (1920.6.1)
のち、『藝術の勝利—露西亞研究』(東京 日本評論社出版部 1921.10.15) に収録
- (訳編) 『ろしあ俚諺集』(露國民衆文學全書 第五編) 東京 大倉書店 1920.6.12 4, 4, 302p 20 × 19 cm
内容: 序 (昇曙夢著 pp.1-4)、目次 (pp.1-4)、一 神話に関する俚諺 (pp.1-15)、二 基督教に関する俚諺 (pp.17-47)、三 歴史に関する俚諺 (pp.49-54)、四 世相に関する俚諺 (pp.55-231)、五 諷刺に関する俚諺 (pp.233-277)、六 政治に関する俚諺 (pp.279-290)、七 哲學に関する俚諺 (pp.291-302)
- (校閲) 『ケープリン傑作集』栗林貞一訳 東京 天佑社 1920.6.15 4, 1, 432p 16 cm
- * 「パルチザンの正體と露國人の虐殺性 (虐殺團パルチザンの研究)」
改造 2卷7号, 105-112 (1920.7.1)
- * 「露西亞文學と近代的不安」
太陽 26卷8号, 140-147 (1920.7.1)
のち、『藝術の勝利—露西亞研究』(東京 日本評論社出版部 1921.10.15) に収録
- * 「近代ロシヤ文豪評傳 (二) イヴァン・ツルゲーニェフ」
中央文學 4年7号, 86-97 (1920.7.1)
- * 「パルチザンの正體 (上)」
秋田魁新報 10424号, 1 (1920.7.4)
- * 「パルチザンの正體 (下)」
秋田魁新報 10425号, 1 (1920.7.5)

- * 「露西亞國民文學の研究 其二、露西亞の傳説に就て」
新小説 25年8号, 1-10 (1920.8.1)
のち、『藝術の勝利—露西亞研究』（東京 日本評論社出版部
1921.10.15）に収録
- * 「ロシヤ文學と民衆教化」
新潮 33卷2号, 121-125 (1920.8.1)
のち、増補して『藝術の勝利—露西亞研究』（東京 日本評論社出版
部 1921.10.15）に収録
- * 「近代露西亞文豪評傳（三）イヴァン・ゴンチャロフ」
中央文學 4年8号, 82-91 (1920.8.1)
- * 「新露西亞の文藝（一）」
電氣と文藝 1卷1号, 63-65 (1920.8.1)
- (談) 「日本は夫婦喧嘩の仲裁役 軍閥風刺劇、ニコリスクに現る（日曜附
録）」 讀賣新聞（朝）15590号, 7 (1920.8.22)
- * 「意地悪女房（ロシヤのお伽噺）」
少年俱樂部 7卷12号, 20-24 (1920.9.1)
- * 「露西亞文學に現はれたる代表的女性（戀愛文學研究號）」
中央文學 4年9号, 2-7 (1920.9.1)
- * 「極東西伯利の視察を終えて（赤色露國を踏破して）」
改造 2卷10号, 33-46 (1920.10.1)
- * 「勞農政府とその運命（勞農露國內外觀）」
解放 2卷10号, 101-107 (1920.10.1)
- * 「露西亞國民文學の研究 其三、ロシヤの民謡に就いて」
新小説 25年10号, 24-30 (1920.10.1)
のち、『藝術の勝利—露西亞研究』（東京 日本評論社出版部
1921.10.15）に収録
- * 「近代露西亞文豪評傳（四）アレキサンドル・オストロフスキイ」
中央文學 4年10号, 42-49 (1920.10.1)
- (訳) 『露西亞現代文豪傑作集 第一編 アンドレーエフ傑作集』東京 大倉
書店 1920.10.5 2, [1], 8, 447p 肖像 16 cm

奥付の譯者表示：昇直隆

内容：本集の發刊に就いて（昇曙夢著 pp.1-2）、目次（p. [1]）、アンドレーエフの藝術に就いて（昇曙夢著 pp.1-8）、霧（pp.1-101）、深淵（pp.103-136）、獸の呪ひ（pp.137-219）、鶴の中（pp.221-257）、地下室（pp.259-286）、戯曲 我等が生活の日（pp.287-447）

(訳) 『露西亞現代文豪傑作集 第二編 クープリン・アルツイバーシェフ傑作集』

東京 大倉書店 1920.10.5 肖像 2, [2], 430p 15 cm

奥付の譯者表示：昇直隆

内容：本集の發刊に就いて（昇曙夢著 pp.1-2）、目次（pp. [1-2]）、クープリンの藝術に就いて（昇曙夢著 丁外 pp.1-8）、生活の河（クウプリン pp.1-53）、泥沼（クウプリン pp.55-98）、閑人（クウプリン pp.99-132）、囁言（クウプリン pp.133-152）、妻（アルツイバーシェフ pp.153-206）、アルツイバーシェフの藝術に就いて（昇曙夢著 丁外 pp.1-6）、戦慄（アルツイバーシェフ pp.207-260）、夜（アルツイバーシェフ pp.261-291）、笑ひ（アルツイバーシェフ pp.293-325）、アリマフエヤ兄弟（アルツイバーシェフ pp.327-358）、附録：白夜（カアメンスキイ pp.359-397）、三奇人（アレキセイ・トルストイ pp.399-430）

* 「露西亞國民文學研究 [其三] ロシヤの民謡に就いて（承前）」

新小説 25年11号, 14-23 (1920.11.1)

のち、『藝術の勝利—露西亞研究』（東京 日本評論社出版部 1921.10.15）に収録

* 「近代露西亞文豪評傳 [五] フェオドル・ドストエーフスキイ」

中央文學 4年11号, 46-55 (1920.11.1)

* 「新露西亞の文藝 (二)」

電氣と文藝 1卷4号, 74 (1920.11.1)

* 「ロシア文學より生れたる思想 (説苑)」

労働共濟 6卷10号, 49-54 (1920.11.1)

(注) 末尾に（文責在記者）とある。

* 「極東過激派の現勢とその將來（満鮮赤化対応策）」

改造 2巻12号, 16-25 (1920.12.1)

* 「マグニツキイ君に就て」

新小説 25年12号, 15-16 (1920.12.1)

のち一部変更の上、(『自由の一年』マグニツキイ著 中村白葉、金田常三郎訳 東京 日本評論社 1922.1.18) に収録

* 「西伯利の旅」 新小説 25年12号, 62-73 (1920.12.1)

内容：一、浦潮の印象 二、ウスリイ沿線の印象

(注) 末尾に未完とある。

のち、「シベリア紀行」として『最近のロシア及シベリヤ』(東京三省堂 1922.1.13) に収録。

* 「近代露西亞文豪評傳 (六) レフ・トルストイ」

中央文學 4年12号, 38-43 (1920.12.1)

(訳) 『露西亞現代文豪傑作集 第三編 ザイツェフ・ソログーフ傑作集』

東京 大倉書店 1920.12.15 2, [2], 丁外9, 丁外9, 430p 肖像 16cm
奥付の譯者表示：昇直隆

内容：本集の發刊に就いて (昇曙夢著 pp.1-2)、目次 (pp. [1-2])、
ザイツェフの藝術に就いて (昇曙夢著 pp.1-9)、靜かなる曙 (pp.1-
26)、客 (pp.27-44)、姉 (pp.45-60)、死 (pp.61-86)、細君 (pp.87-
107)、狼 (pp.109-122) (以上、ザイツェフ作)、ソログーフの藝術
に就いて (昇曙夢著 pp.1-9)、かくれんぼ (pp.123-152)、毒の園
(pp.153-197)、白い犬 (pp.199-213)、白いお母様 (pp.215-241)、悲
劇 死の勝利 (pp.243-318) (以上、ソログーフ作)、附録 夜の叫び
(pp.319-345)、嫉妬 (pp.347-372) (以上、バリモント作)、一刹那
(アヒーポフ作 pp.373-404)、奇蹟 (チリコフ作 pp.405-430)

大正 10 (1921) 年

* 「ロシアの都會生活と都會藝術」

改造 3巻1号, 35-45 (1921.1.1)

のち、「現代都會生活と都會藝術」と標題を変更し、『藝術の勝利—
露西亞研究』(東京 日本評論社出版部 1921.10.15) に収録

- * 「哀れシベリヤの兒童（事實談）」
少年俱樂部 8卷1号, 54-57 (1921.1.1)
 - * 「赤化せる西伯利の文化（西伯利旅行の印象）」
太陽 27卷1号, 89-97 (1921.1.1)
 - * 「近代露西亞文學の主潮（露西亞文學研究號）」
中央文學 5年1号, 62-89 (1921.1.1)
内容：一、國民文學の確立まで 二、プーシキン—レルモンツ—
ゴーゴリ 三、青年思想家の群 四、西歐主義とスラヴ主義 五、
ベリンスキイとゲルツエン 六、社會的傾向 七、近代小説の特質
八、露西亞文學の暗黒時代 九、露西亞文學の光明時代 十、チェ
ルヌイセーフスキイとドブロリユーポフ 十一、社會的勃興と文星
の活動 十二、大改革時代の三大家=ツルゲーニェフ=ゴンチャロ
フ=オストロフスキイ 十三、父と子の闘ひ 十四、ピサレフの
虚無思想 十五、郷土派と平民作家 十六、他愛主義思潮 十七、
七十年代の四大家=サルツイコフ=ドストエーフスキイ=トルスト
イ=ミハイロフスキイ 十八、反動と幻滅の悲哀 十九、チエー
ホフ 廿、マルクス主義とゴーリキイ 廿一、現代文壇の人々
のち、『藝術の勝利—露西亞研究』（東京 日本評論社出版部
1921.10.15）に収録
 - * 「露西亞文學の紹介者（昇曙夢氏、米川雅夫氏、中村白葉氏）」[口絵と写真]
中央文學 5年1号, (1921.1.1)
 - * 「いろいろの意味（門松は冥途の旅の一里塚、目出度もあり目出度もな
し—諸名家の感想）」[アンケート]
日本及日本人 799号, 308 (1921.1.1)
 - * 「私の好きな小説戯曲中の女」[アンケート]
文章俱樂部 6年1号, 64 (1921.1.1)
 - * 「不思議なお土産（露西亞のお伽噺）」
おとぎの世界 3年2号, 2-8 (1921.2.1)
- (訳) 『露西亞現代文豪傑作集 第四編 ゴーリキイ傑作集』東京 大倉書店
1921.2.20 2, 丁外, 11, 428p 肖像 16cm

奥付の譯者表示：昇直隆

内容：本集の發刊に就いて（昇曙夢著 pp.1-2）、目次（丁外）、戯曲『どん底』其他の作品に就いて（昇曙夢著 pp.1-11）、零落れた人々（pp.1-163）、惡魔（pp.165-186）、退屈まぎれ（pp.187-231）、どん底（戯曲）（pp.233-428）

- * 「猶太民族の現状及其の潛勢力（虐げられつつある民族の研究）」
大觀（実業之日本社） 4 卷 3 号, 113-121 (1921.3.1)
 - * 「文學に見れたる露西亞國民性」（日本大學社會學會編『現代社會思潮』東京 清水書店 1921.3.5 所収 pp.77-99）
 - * 「勞農露國の文化施設」
新文學 16 卷 4 号, 281-289 (1921.4.1)
（注）卷末に（露文雜誌『ツウオルチエスツウオ』の記事に據る）とある。のち、『藝術の勝利—露西亞研究』（東京 日本評論社出版部 1921.10.15）に収録
 - * 「勞農露國を支配せる主要人物の性格スケッチ」（世界パンフレット通信號外）東京 世界思潮研究會 1921.4.20 [1], 26p 19 cm
表紙のタイトル：『過激派人物の性格スケッチ』
（注）標題紙に「メードウエーク・ピクトリアル誌所載」とある。
執筆及監輯：稲葉君山、馬場孤蝶、長瀬鳳輔、昇曙夢
 - * 「ゴオルキイ論」（『ゴオルキイ全集 第一卷』東京 日本評論社出版部 1921.6.8 所収 pp.1-27）
（注）標題紙のタイトル：『ゴオリキイ全集』
 - * 「序」（フォンウキジン作 尾瀬敬止、中村莊太郎譯『私の娘』東京 弘文館 1921.6.12 所収 p.1）
 - * 「書齋に對する希望（3）」〔アンケート〕
文章俱樂部 6 年 7 号, 25 (1921.7.1)
 - * 「舞臺の上に觀た『闇の力』」
新演藝 6 卷 8 号, 58-60 (1921.8.1)
- （訳）『ゴオルキイ全集 第二卷』東京 日本評論社出版部 1921.8.15
2, 1, 1, 523p 肖像 20 cm

内容：ゴオルキイ全集の計畫について (pp.1-2)、例言 (p.1)、内容 (p.1)、零落者の群 (pp.1-136)、悪魔 (pp.137-156)、退屈まぎれ (pp.157-195)、マルウア (pp.197-326)、カインとアルテム (pp.327-420)、イゼルギル婆さん (pp.421-479)、横着者 (pp.481-523)

- * 『近代文藝十二講』 生田長江、野上白川、昇曙夢、森田草平共著 東京 新潮社 1921.8.18 2, 10, 447, 10p 21 cm

(注) すべての執筆項目は不明

内容：第十講 露西亞近代文學 (pp.331-380) 一 國民文學の樹立、二 社會的傾向、三 自然主義、虛無主義、四 愛他主義、宗教的傾向、五 最近文壇の概観、六 象徴主義、神秘主義、七 象徴主義以外の諸派、八 波蘭文學の一瞥

のち、一部改訂を加え「新潮文庫 第六十九編」(1933.9.27)

- (訳) 『露西亞現代文豪傑作集 第五編 チェーホフ傑作集』 東京 大倉書店 1921.9.10 2, 2, 8, 402p 肖像 16 cm

奥付の譯者表示：昇直隆

内容：本集の發刊に就いて (昇曙夢著 pp.1-2)、目次 (pp.1-2)、チェーホフの藝術に就いて (昇曙夢著 pp.1-8)、箱の中の男 (pp.1-34)、ウァローヂャ (pp.35-66)、窠扶斯 (pp.67-85)、曠野 (pp.87-316 以上、チェーホフ作)、附録 露國現代風刺小説集 電報 (ドール作 pp.319-329)、ストライキ (アーツフ作 pp.330-344)、女とピストル (アウエルチェンコ作 pp.345-356)、嫉妬 (テツフイー夫人作 pp.357-368)、狼狽 (ア・トルストイ作 pp.369-388)、附篇 偶然 (レフ・トルストイ作 pp.389-402)

- * 「露西亞文學に現れたる女性」

愛國婦人 474号, 46-51 (1921.10.1)

のち、増補し『藝術の勝利—露西亞研究』(東京 日本評論社出版部 1921.10.15) に収録

- * 「トラピスト修道院の印象」

新文學 16卷10号, 98-105 (1921.10.1)

- * 『藝術の勝利—露西亞研究』 東京 日本評論社出版部 1921.10.15

[2], 2, 399p 20 cm

内容：序 (pp. [1-2])、目次 (pp.1-2)、露西亞藝術の勝利 (pp.1-42)、近代露西亞文學の主潮 (pp.43-96)、現代都會生活と都會藝術 (pp.97-118)、露西亞文學と近代的不安 (pp.119-135)、現代文學に於ける生と死の問題 (講演) (pp.137-158)、露西亞文學に現れたる女性 (pp.159-174)、露西亞文學と民衆教化 (pp.175-186)、杜翁の晩年と其悲劇的意義 (pp.187-202)、作家と作品を通して (感想四題) (pp.203-224)、ゴーリキイの文學的使命 (pp.225-259)、西伯利の愛國詩人 (pp.261-276)、人生の未來派 (pp.277-285)、勞農露國の文化施設 (pp.287-303)、勞農治下の文藝 (pp.305-317)、露西亞國民文學の研究 (pp.319-399) — 露西亞のお伽噺に就いて (pp.320-343)、二 露西亞の傳説に就て (pp.344-361)、三 露西亞の民謡に就いて (pp.361-399)

(訳) 「譯詩三篇 (ブリュースフ) (現代のロシヤ詩壇—選ばれたる詩篇)」

露西亞藝術 2号, 10-11 (1921.10.24)

(訳) 『人は何によって生きるか』(トルストイ文庫1) (久保正夫と分担訳)

東京 新潮社 1921.11.20 2, [1], 194p 16 cm

表紙・背の書名：「人は何によって生きるか」、奥付の書名「人は何によって生きるか」、本文のタイトル表記：「人は何によつて生きるか」、表題紙なし。

内容：序 (pp.1-2)、目次 (p. [1])、人は何によつて生きるか (昇曙夢訳 pp.1-52)、二老人 (昇曙夢訳 pp.53-97)、蠟燭 (昇曙夢訳 pp.99-118)、神は眞實を見給ふ、されど待ち給ふ (昇曙夢訳 pp.119-137)、人はどれだけの土地を要するか (久保正夫訳 pp.139-175)、小鬼とパン切れ (久保正夫訳 pp.177-185)、鶏の卵のやうに大きな穀粒 (久保正夫訳 pp.187-194)

大正 11 (1922) 年

* 「詩人ベールイ (1922 年以後の人々)」

改造 4 卷 1 号, 30-37 (1922.1.1)

- * 「露西亞文學の意義及特質」
露西亞藝術 3号, 7-11 (1922.1.1)
- * 『最近のロシア及シベリヤ』(日本百科叢書) 東京 三省堂 1922.1.13
3, 4, 168p 折込地図一枚あり
内容: 序 (pp.1-3)、目次 (pp.1-4)、ポリシェウイキイの革命 (pp.1-9)、勞農政府の根本政策 (pp.10-15)、勞農政府の制度及施設 (pp.15-27)、勞農治下の文藝及文藝施設 (pp.27-42)、革命後のシベリア政情 (pp.43-55)、極東シベリアの社會政治状態 (pp.56-77)、シベリアの文化状態 (pp.77-101)、パルチザンと尼港事件 (pp.101-118)、チタ政變と極東共和国 (pp.118-131)、附録 シベリア紀行 一、浦潮の印象 (pp.132-148)、二、ウスリイ沿線の印象 (pp.148-157)、三、哈府の印象 (pp.158-168)
- * 「(序文) 作者マグニーツキイ君に就いて」(マグニーツキイ著 中村白葉、金田常三郎訳『自由の一年』東京 日本評論社 1922.1.18 所収 pp.1-3)
- (編) 『露國文豪カリカチュア』(世界パンフレット通信 65) 東京 世界思潮研究會 1922.1.30 54, 11p 19 cm
内容: 『若き群』の會 (p.1)、1 レフ・トルストイ (1828-1909) (pp.2-3)、2 マキシム・ゴーリキイ (1869-) (pp.4-5)、3 エウゲニイ・チリコフ (1864-) (pp.6-7)、4 コンスタンチン・バリモント (1867-) (pp.8-9)、5 アレクサンドル・クープリン (1870-) (pp.10-11)、6 レオニード・アンドレーエフ (1871-1920) (pp.12-13)、7 ボリス・ラザレーフスキイ (1871-) (pp.14-15)、8 アレクサンドル・イズマイロフ (1873-) (pp.16-17)、9 キクトル・ムイゼリ (1880-) (pp.18-19)、10 アレクサンドル・ロスラーヴレフ (1883-) (pp.20-21)、11 セルゲイ・ゴロデツキイ (1884-) (pp.22-23)、12 ボリス・ザイツエフ (1882-) (pp.24-25)、13 ピョートル・ボボレイキン (1836-) (pp.26-27)、14 イエロニム・ヤシンスキイ (1850-) (pp.28-29)、15 カジミル・バラントウエーウイチ (1851-) (pp.30-31)、16 セミヨン・ウエンゲロフ (1855-) (pp.32-

33)、17 イヴァン・ブーニン (1870-) (pp.34-35)、18 ニエミロー
ウイチ・ダンチエンコ (1848-) (pp.36-37)、19 ワレーリイ・ブリ
ユソフ (1873-) (pp.38-40)、20 レーミゾフ (pp.41-43)、21 ルカ
ウイシニコフ (pp.44-45)、22 スキターレツ (pp.46-47)、23 ク
ズミン (1877-) (p.48)、24 グリゴリー・チュルコフ (1879-)
(p.49)、25 ミハイル・メンシコフ (1859-) (p.50) 26 ユシケーウ
イチ (p.51)、27 チュコーフスキイ (pp.52-54)、舊露都文士生活の
スケッチ (昇曙夢著 pp.1-11)

* 「毆られ小僧 (世界の童話 その六 露西亞)」

時事新報 13856号, 附録 (1922.2.12)

(訳) 『露西亞現代文豪傑作集 第六篇 現代露國詩人傑作集』東京 大倉書

店 1922.3.15 折込1枚 2, 2, 277p 16 cm

奥付の譯者表示: 昇直隆

内容: 本集の發刊に就いて (昇曙夢著 pp.1-2)、目次 (pp.1-2)、現
代露國詩人と其作品に就いて (昇曙夢著 pp.1-19)、メレジュコー
フスキイの詩 (pp.21-30) 鬱憂の秋、無題小曲: バリモントの詩
(pp.31-67) 路傍の草、抒情小曲、『何故?』、月のかなしみ、雨、夜
の海邊、自己肯定、斷篇、慈母: ブリュソフの詩 (pp.69-84) [無
題]、自由の歌、短刀、拷問、ユルギス・バルツルシャイティスに、
無題: ソロゲーブの詩 (pp.85-104) [無題]、同行者、斷篇、同胞:
ミンスキイの詩 (pp.105-113) [無題]、日の出前、セレナダ: ギッ
ピウス女史の詩 (pp.115-123) 蛭、歌、祈祷: ブーニンの詩 (pp.125-
143) [無題]、二月、家の中、冬の日、冬の夜、斷片: イヴァーノ
フの詩 (pp.145-156) 酒神誘惑、迷宮の歌: プロークの詩 (pp.157-
177) [無題]、エックレチアスト、幻想、スキフ人: ベールイの詩
(pp.179-189) こはくない、静かな休息、荒廢の家: ゴロデーツキイ
の詩 (pp.191-201) 何うして私はお前を迎へたか、自由、都會の小
供: クズミンの詩 (pp.203-225) 愛の諧調、夜會にて、モスクヴァ
の思ひ、假面舞踏、樂しき旅人、アレキサンドリヤの歌: コニェフ
スコイの詩 (pp.227-237) 天才、邂逅の記憶、静かな雨、冬の聲:

ウォロシンの詩 (pp.239-251) 巴里、詩の誕生、蓬、夜：イエセニンの詩 (pp.253-259) [無題]、改造：附録 現代露國詩人重要書目 (pp.261-277)

- * 「最近露西亞小説に現はれたる性欲關係の變態」
性 (日本性學會) 5 卷 4 号 (31 号), 2-9 (1922.3.1)

- * 「ロシヤ文學者の近状 (上) (文藝)」
時事新報 13900 号, 13 (1922.3.28)

- * 「ロシヤ文學者の近状 (下) (文藝)」
時事新報 13901 号, 9 (1922.3.29)

のち、「露都文學者の生活」(「露西亞藝術」8 輯 1922.9.10) と合せて改稿し、『勞農露國の文藝及文化』(表現叢書 5) (東京 二松堂書店 1923.1.28) に収録。

- * 「死後の世界は有るか無いか (死の神秘と心靈問題)」[アンケート]
婦人世界 17 卷 4 号, 71 (1922.4.1)

- * 「ゴーリキイと新思潮 (歐洲現代文學と世界思潮)」
早稻田文學 (第二次) 197 号, 3-15 (1922.4.1)

- * 「露國現代思潮と性の問題」
サンデー毎日 1 年 4 号, 18 (1922.4.23)

(講演) 「奄美大島の土俗と宗教とに就て」
人類学雜誌 37 卷 4 号, 96-109 (1922.4.25)

- * 「露國現代思潮と性の問題 (承前)」
サンデー毎日 1 年 5 号, 17 (1922.4.30)

(注) 卷末に (未完) とあるが、調べて頂いた (関西大学図書館) 結果、3 年 56 号までには続きは掲載されていない。

- * 「勞農露國と階級藝術 - プロレタリア藝術に就ての一考察」
太陽 28 卷 5 号, 112-119 (1922.5.1)

のち、「ソウェート・ロシヤと階級藝術」とし、『勞農露國の文藝及文化』(表現叢書 5) (東京 二松堂書店 1923.1.28) に収録。

- * 「ロシヤ近代民謠の一様式」
石楠 8 卷 6 号, 2-9 (1922.6.10)

- * 「かくれんぼ（世界の童話 その十二 露西亞）」
時事新報 13989号, 附録3 (1922.6.25)
- * 「革命ロシヤの文學」表現 2巻7号, 123-133 (1922.7.1)
(注) 末尾に（ベルリン発行露文雑誌『ルースカヤ、クニーガ』に據る）とある。
のち、「革命ロシアの文學」とし、田所照明編『革命ロシア研究十講』（東京 酒井書店 1922.10.28）に収録。
のち、『勞農露國の文藝及文化』（表現叢書5）（東京 二松堂書店 1923.1.28）に収録。
- (校閲) 『愛の極み』アルツイバーセフ原著 高野槌藏訳 東京 天佑社
1922.7.10 300p 20 cm
内容：愛の極み (pp.1-215)、血 (pp.217-300)
- * 「研究座の『かもめ』を観て」
演藝畫報 9年8号, 102-105 (1922.8.1)
- * 「レーニン若し死せば」[アンケート]
解放 4巻8号, 110 (1922.8.1)
- * 「ロシヤの智識階級に就て（上）（學藝欄）」
秋田魁新報 11189号, 4 (1922.8.8)
(注) 「(上)」とあるが、続きの記事は掲載されていない（国立国会図書館の調査による）。
- * 「ロシヤの舞踊（一）（學藝欄）」
東京朝日新聞（朝）12995号, 6 (1922.8.8)
- * 「ロシヤの舞踊（二）（學藝欄）」
東京朝日新聞（朝）12996号, 6 (1922.8.9)
- * 「ロシヤの舞踊（三・完）（學藝欄）」
東京朝日新聞（朝）12997号, 6 (1922.8.10)
- * 「ロシヤ舞踊に對する印象（ロシヤ舞踊の研究）」[アンケート]
露西亞藝術 7輯, 15 (1922.8.20)
- * 「勞農露國の文化政策と其施設」
改造 4巻9号, 7-21 (1922.9.1)

のち、「ソウェート・ロシヤの文化政策と其施設」とし、『勞農露國の文藝及文化』（表現叢書5）（東京 二松堂書店 1923.1.28）に収録。

- * 「モスクヴァ藝術座の「かもめ」劇」

新演藝 7巻9号, 28-35 (1921.9.1)

- * 「露國々民性と文化問題」

早稲田文學（第二次）202号, 34-38 (1922.9.1)

のち、「ロシヤ國民性と文化問題」とし、『勞農露國の文藝及文化』（表現叢書5）（東京 二松堂書店 1923.1.28）に収録。

- * 「露都文學者の生活」露西亞藝術 8輯, 11-14 (1922.9.10)

のち、「ロシヤ文學者の近状」（「時事新報」1922.3.28-29）と合せて改稿し、『勞農露國の文藝及文化』（表現叢書5）（東京 二松堂書店 1923.1.28）に収録。

- (講演) 「露西亞社會思想に就て」

日本法政新誌 19巻10号 (209号), 207-222

(1922.10.1) (注) 卷末に「(文責記者にあり)」とある。

- * 「一、文學者たらむと志した動機；二、初めて作品を發表した時の心理状態及び其前後」[アンケート]

文學世界 1巻1号, 100 (1922.10.1)

- * 「露國新聞に現はれたる日本現代の小説 (一) (學藝欄)」

東京朝日新聞 (朝) 13067号, 6 (1922.10.19)

- * 「露國新聞に現はれたる日本現代の小説 (二) (學藝欄)」

東京朝日新聞 (朝) 13068号, 6 (1922.10.20)

- * 「露國新聞に現はれたる日本現代の小説 (三) (學藝欄)」

東京朝日新聞 (朝) 13070号, 6 (1922.10.22)

- * 「露國新聞に現はれたる日本現代の小説 (四) (學藝欄)」

東京朝日新聞 (朝) 13072号, 6 (1922.10.24)

- * 「露國新聞に現はれたる日本現代の小説 (五) (學藝欄)」

東京朝日新聞 (朝) 13073号, 6 (1922.10.25)

- * 「露國新聞に現はれたる日本現代の小説 (六) (學藝欄)」

東京朝日新聞 (朝) 13074 号, 6 (1922.10.26)

- * 「革命ロシアの文學 (第四講) (田所照明編『革命ロシア研究十講』
東京 酒井書店 1922.10.28 所収 pp.111-140)
(注) 卷末に (ベルリン發行露文雜誌『ルースカヤ、クニーガ』に據
る) とあり。
- * 「近代露西亞文學の源泉」
文學世界 1 卷 2 号, 11-15 (1922.11.1)
- * 「ロシアの音樂と民謡 - その民謡の特質 (ロシア音樂の研究)」
露西亞藝術 2 卷 8 号 (10 輯), 9-12 (1922.11.1)
- * 「ロシアの飢饉に就いて」
太陽 28 卷 14 号, 125-128 (1922.12.1)
- * 「プロレタリア詩人の藝術運動 (一) (日曜文藝)」
北海タイムス 11468 号, 4 (1922.12.24)
- * 「プロレタリア詩人の藝術運動 (二)」
北海タイムス 11470 号, 4 (1922.12.26)
- * 「プロレタリア詩人の藝術運動 (三・完)」
北海タイムス 11471 号, 4 (1922.12.27)

大正 12 (1923) 年

- * 「葉の花が咲く - 南國奄美大島」
週刊朝日 3 卷 1 号, 28 (1923.1.1)
- * 「ソウエート・ロシアの詩壇」
女性改造 2 卷 1 号, 188-197 (1923.1.1)
- * 「ロシア文學の受難時代 (受難と人、藝術及時代)」
新小説 28 年 1 号, 51-59 (1923.1.1)
- * 「露西亞思想の二體系」
日本法政新誌 20 卷 1 号 (212 号), 67-81 (1923.1.1)
- * 『勞農露國の文藝及文化』 (表現叢書 5) 東京 二松堂書店 1923.1.28
162p 16 cm
内容: 目次 (pp.1-2)、ソウエート・ロシアと階級藝術 (pp.3-32)、

- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (三) 戰時共產主義時代の經濟策 (下)」 中外商業新報 13379 号, 3 (1923.6.3)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (四) 新經濟政策と産業の勃興」 中外商業新報 13380 号, 3 (1923.6.4)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (五) 資本主義的色彩と米國化 (上)」 中外商業新報 13381 号, 3 (1923.6.5)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (六) 資本主義的色彩と米國化 (下)」 中外商業新報 13382 号, 3 (1923.6.6)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (七) モスクワへモスクワへ」 中外商業新報 13383 号, 3 (1923.6.7)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (八) 新式成金の藝術保護」 中外商業新報 13384 号, 3 (1923.6.8)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (九) 階級混淆より階級分化へ」 中外商業新報 13385 号, 3 (1923.6.9)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (十) 山なす貨物八百隻の寶船」 中外商業新報 13386 号, 3 (1923.6.10)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (十一) 生れ變ったペトログラード」 中外商業新報 13387 号, 3 (1923.6.11)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (十二) 勞農離反と政府の煩悶」 中外商業新報 13388 号, 3 (1923.6.12)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (十三) 新ブルジョアの出現と反革不安」 中外商業新報 13389 号, 3 (1923.6.13)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (十四) 政策の不統一 共產黨分裂の兆 (上)」 中外商業新報 13390 号, 3 (1923.6.14)
- * 「新經濟政策で生れ變わった勞農露國の真相 (十五・完) 政策の不統一 共產黨分裂の兆 (下)」 中外商業新報 13391 号, 3 (1923.6.15)
- * 『露國現代の思潮及文學 (改版)』東京 改造社 1923.7.13 10, 15,
770p 20 cm

内容：改版に序して (pp.1-3) 舊版の序より (pp.5-8) 参考書目 (pp.9-10) 目次 (pp.1-15) 前編 一、序論 現代露西亞文藝思潮概論 (pp.3-29) アントン・チェーホフ略傳 (pp.31-32) 二、幻滅期の文豪チェーホフ (pp.33-70) (一) チェーホフとその時代、(二) 藝術家としてのチェーホフ、(三) 劇作家としてのチェーホフ、マクシム・ゴーリキイ略傳 (pp.71-72) 三、マルクス主義の作家ゴーリキイ (pp.73-139) (一) ゴーリキイの藝術、(二) 流浪時代のゴーリキイとその作品、(三) 『どん底』の社會的及藝術的價值、(四) 社會運動家としてのゴーリキイ、レオニード・アンドレーエフ自叙傳 (pp.141-142) 四、インテリゲンチヤの作家アンドレーエフ (pp.143-235) (一) アンドレーエフの思想と作風、(二) アンドレーエフの藝術に於ける事實と氣分、(三) アンドレーエフの作品とその印象、アレクサンドル・クープリン略傳 (pp.237-238) 五、生の讚美者クープリン (pp.239-289) (一) 近代思潮とクープリン、(二) 藝術家としてのクープリン、(三) クープリンの代表的作品、フョードル・ソログーブ自叙傳 (p.291) 六、死の讚美者ソログーブ (pp.293-336) (一) ソログーブの人生觀と惡魔主義、(二) ソログーブの藝術、(三) ソログーブの代表的戯曲、ミハイル・アルツイバーシェフ自叙傳 (p.337) アルツイバーシェフの生涯より (p.338) 七、現代個人主義の作家アルツイバーシェフ (pp.339-383) (一) アルツイバーシェフの厭世主義、(二) サアニズムと社會思潮、(三) アルツイバーシェフの作品、アナトリー・カメンスキイ自叙傳 (p.385) 八、肉慾の謳歌者カメンスキイ (pp.387-395) ボリス・ザイツェフ略傳 (p.397) 九、ザイツェフの新浪曼主義 (pp.399-411) アレクセイ・トルストイ [肖像] (p.413) 十、ア、トルストイの新寫實主義 (pp.415-432) ウェレサーエフ、チリコフ肖像 (p.433) 十一、ウェレサーエフとチリコフ (pp.435-443) (一) ウェレサーエフ、(二) エヴゲニイ・チリコフ、レーミゾフ、ドゥイモフ肖像 (p.445) 十二、抒情的寫實主義の作家 (pp.447-463) (一) アレクセイ・レーミゾフ、(二) セルゲーエフ・ツェンスキイ、(三) オッシブ・ドゥイモフ、

(四) ロープシン、現代女流作家肖像 (p.465) 十三、現代女流作家の典型 (pp.467-478) (一) ウェルビーツカヤ、(二) シチェプキナ・クウベルニク、(三) チャールスカヤ、(四) ナグロードゥスカヤ、後編 一、現代露西亞詩壇概論 (pp.479-493) ドミートリイ・メレジュコーフスキイ自叙傳 (pp.495-496) 二、ドミートリイ・メレジュコーフスキイ (pp.497-521) コンスタンチン・バリモント自叙傳 (pp. 523-524) 三、コンスタンチン・バリモント (pp.525-561) (一) 刹那の詩人バリモント、(二) バリモントの貴族的個人主義、ワレーリイ・ブリュソフ自叙傳 (p.563) 四、ワレーリイ・ブリュソフ (pp.565-578) イヴァン・ブーニン略傳 (p.579) 五、イヴァン・ブーニン (pp.581-604) (一) 詩人としてのブーニンの特色、(二) 叙景詩人としてのブーニン、アンドレイ・ベールイ自叙傳 (p.605) 六、アンドレイ・ベールイ (pp.607-619) ウィヤチエスラフ・イヴァーノフ自叙傳 (p.621) 七、ウィヤチエスラフ・イヴァーノフ (pp.623-637) アレクサンドル・ブローク自叙傳 (p.639) 八、アレクサンドル・ブローク (pp.641-658) ジナイダ・ギッピウス女子肖像 (p.659) 九、ジナイダ・ギッピウス女史 (pp.661-670) 若き群 (クラーバリ 壺 p.671) 十、ツウェターエヴァ女史とアフマドヴァ女史 (pp.673-679) セルゲイ・ゴロデーツキイ自叙傳 (p.681) 十一、アクメイズムとアダミズム (pp.683-693) ゴリツシュミット、ダウイード・ブルリュク肖像 (p.695) 十二、露西亞の未來派 (pp. 697-707) セルゲイ・エシエーニン肖像 (p.709) 十三、ソウェート・ロシヤの文學 (pp.711-758) (一) 革命以後の露西亞詩壇、(二) 革命以後の露西亞文學、新進作家及詩人肖像 (p.759-760) 附録 新進作家及詩人自叙傳 (pp.761-770) (一) レオニード・アンドルーソン、(二) ヤコフ・ゴーゼン、(三) アレクサンドル・イズマイロフ、(四) ボリス・ラザレーフスキイ、(五) ウィクトル・ムイゼリ、(六) アレクサンドル・ロスラーヴレフ、(七) ドミトリイ・ツェンゾル、(八) ゲオルギイ・チュルコフ、(九) スキターレツ、(十) 其他の作家詩人

(訳) 『戦争と平和 (三巻)』(世界文藝全集 第十五編) トルストイ作 東京

新潮社 1923.8.10 1229-1870p 19 cm

内容：第九編 (pp.1229-1381)、第十編 (pp.1383-1655)、第十一編 (pp.1657-1870)

(訳) 『戦争と平和 (四卷)』(世界文藝全集 第十六編) トルストイ作 東京

新潮社 1923.8.10 1871-2452p 19 cm

内容：第十二編 (pp.1871-1974)、第十三編 (pp.1975-2055)、第十四編 (pp.2057-2143)、第十五編 (pp.2144-2249)、後話 第一編 (pp.2252-2358)、第二編 (pp.2359-2437)、後話 戦争と平和に就きて (pp.2439-2452)

(談) 「大震災の報が莫斯科に達したとき、露國を擧げて同情」

東京朝日新聞 (朝) 13398 号, 2 (1923.9.25)

(談) 「最近の露西亞文学」東京朝日新聞 (朝) 13399 号, 3 (1923.9.26)

のち、「秋田魁新報」11614 号 (1923.10.7) に再録。

* 「モスクヴァ博覽會の印象 (一)」

中外商業新報 13487 号, 1 (1923.9.28)

(注) 完結後、「新興國を象る博覽會」として『赤露見たま、記』(新ロシア・パンフレット 第一編) (東京 新潮社 1924.6.10) に再録。

* 「モスクヴァ博覽會の印象 (二)」

中外商業新報 13488 号, 1 (1923.9.29)

* 「モスクヴァ博覽會の印象 (三)」

中外商業新報 13489 号, 1 (1923.9.30)

* 「モスクヴァ博覽會の印象 (四)」

中外商業新報 13490 号, 1 (1923.10.1)

* 「モスクヴァ博覽會の印象 (五)」

中外商業新報 13492 号, 1 (1923.10.3)

* 「モスクヴァ博覽會の印象 (六)」

中外商業新報 13493 号, 1 (1923.10.4)

* 「モスクヴァ博覽會の印象 (七)」

中外商業新報 13495 号, 2 (1923.10.6)

* 「最近の露西亞文學」秋田魁新報 11614 号, 1 (1923.10.7)

- * 「モスクヴァ博覽會の印象（八）」
中外商業新報 13497号,2 (1923.10.8)
- * 「モスクヴァ博覽會の印象（九）」
中外商業新報 13498号,2 (1923.10.9)
- * 「モスクヴァ博覽會の印象（十）」
中外商業新報 13499号,2 (1923.10.10)
- * 「モスクヴァ博覽會の印象（十一）」
中外商業新報 13500号,2 (1923.10.11)
- (談) 「モスクワ劇壇の印象（一）（文藝）」
都新聞 12852号,5 (1923.10.11)
- * 「モスクヴァ博覽會の印象（十二）」
中外商業新報 13501号,2 (1923.10.12)
- (談) 「モスクワ劇壇の印象（二）（文藝）」
都新聞 12853号,5 (1923.10.12)
- * 「モスクヴァ博覽會の印象（十三）」
中外商業新報 13502号,2 (1923.10.13)
- (談) 「モスクワ劇壇の印象（三）（文藝）」
都新聞 12854号,5 (1923.10.13)
- * 「モスクヴァ博覽會の印象（十四）」
中外商業新報 13503号,2 (1923.10.14)
- (談) 「モスクワ劇壇の印象（四）（文藝）」
都新聞 12855号,5 (1923.10.14)
- * 「モスクヴァ博覽會の印象（十五）」
中外商業新報 13504号,2 (1923.10.15)
- * 「モスクヴァ博覽會の印象（十六）」
中外商業新報 13505号,2 (1923.10.16)
- (談) 「モスクワ劇壇の印象（五）（文藝）」
都新聞 12857号,5 (1923.10.16)
- * 「モスクヴァ博覽會の印象（十七）」
中外商業新報 13506号,2 (1923.10.17)

- (談) 「モスクワ劇壇の印象 (六・完) (文藝)」
都新聞 12858号, 5 (1923.10.17)
- * 「モスクヴァ博覧會の印象 (十八)」
中外商業新報 13507号, 2 (1923.10.18)
- * 「モスクヴァ博覧會の印象 (十九)」
中外商業新報 13508号, 2 (1923.10.19)
- * 「モスクヴァ博覧會の印象 (二十・完)」
中外商業新報 13510号, 2 (1923.10.21)
(注) 末尾に「附記 近日の紙上より更に「モスクヴァの二週間」と題する赤都の印象記を連載する」とある。
- * 「乾坤一新の露西亞文壇：アクメイズム－詩學派－オポヤーズ－左翼未來派－レフ－コンスツルクチウイズム」
改造 5卷11号, 180-191 (1923.11.1)
- * 「勞農露國の新舞踊劇」
新劇 1卷1号, 71-75 (1923.11.1)
- * 「露西亞文壇見たまゝの記」
我觀 2号, 116-122 (1923.11.15)

大正 13 (1924) 年

- * 「最近ロシヤ詩壇の印象 (象徴派と未來派の詩人)」
心の花 28卷1号, 27-33 (1924.1.1)
- * 「漫畫ロシア文壇の現勢解説」
文章俱樂部 9年1号, 22-23 (1924.1.1)
(注) pp.20-21に掲載の「ロシア文壇の現勢 (諷刺畫)」(ボリス・エフィモフ畫)の解説。のち、『ソヴェートロシヤ 漫畫・ポスター集』(東京 南蠻書房 1929.5.1)に再録。
- * 「赤露印象記 (一) モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13583号, 2 (1924.1.2)
(注) 完結後、「我が眼に映ぜるロシヤの實情」として『赤露見たまゝの記』(新ロシヤ・パンフレット 第一編) (東京 新潮社

1924.6.10) に再録。

- * 「赤露印象記（二）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13584号,2 (1923.1.3)
- * 「赤露印象記（三）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13585号,2 (1924.1.4)
- * 「赤露印象記（四）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13586号,2 (1924.1.5)
- * 「赤露印象記（五）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13587号,2 (1924.1.6)
- * 「赤露印象記（六）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13588号,2 (1924.1.7)
- * 「赤露印象記（七）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13589号,2 (1924.1.8)
- * 「赤露印象記（八）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13590号,2 (1924.1.9)
- * 「赤露印象記（九）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13592号,2 (1924.1.11)
- * 「赤露印象記（十）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13593号,2 (1924.1.12)
- * 「赤露印象記（十一）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13594号,2 (1924.1.13)
- * 「赤露印象記（十二）モスクヴァの二週間」
中外商業新報 13595号,2 (1924.1.14)
- (訳) 「検察官」エフレイノフ作
演劇新潮 1巻2号,202-227 (1924.2.1)
- * 「ロシヤの冬の情趣（深冬夜話）」
改造 6巻2号,230-233 (1924.2.1)
- * 「革命時代のロシヤ演劇」
我觀 4号,106-112 (1924.2.1)
- * 「夜のモスクヴァ（ストーブ雑話）」

- 女性改造 3巻2号, 101-103 (1924.2.1)
- * 「露西亞新詩壇に於ける詩の科學的研究—「オポヤズ」研究の一端」
日本詩人 4巻2号, 2-11 (1924.2.1)
- * 「露西亞文壇を一瞥して—「セラピオン兄弟」其の他評判の小説」
文章俱樂部 9年2号, 2-5 (1924.2.1)
- * 「勞農露國の工藝美術」
中外商業新報 13615号附録, 3 (1924.2.3)
- * 「舞臺装置に於ける露國最近の藝術的收穫」
演劇新潮 1巻3号, 17-27 (1924.3.1)
(注) 末尾に(劇作家ボリス・ロパチンスキイの説に據る)とあり。
- * 「邦劇を海外へ紹介するとしたら=脚本と俳優=」[アンケート]
演劇新潮 1巻3号, 80 (1924.3.1)
- * 「勞農文化施設の現状」
太陽 30巻3号, 90-97 (1924.3.1)
のち、「教育と文化施設の現状」として『赤露見たま、記』(新ロシヤ・パンフレット 第一編)(東京 新潮社 1924.6.10)に再録。
(講演)「私の眼に映じたる勞農露國の美術」昇直隆
人類學雜誌 39巻3号, 121-129 (1924.3.25)
- * 「オストローフスキイの喜劇について(露西亞)(外國劇壇の喜劇研究)」
新演藝 9巻4号, 2-7 (1924.4.1)
- * 「ソウェート・ロシヤの工藝美術」
ロシヤ文學 17号, 2-5 (1924.4.1)
- * 「ロシヤ最近の舞踊(日曜附録)」
中外商業新報 13678号, 3 (1924.4.6)
- * 「ロシヤ詩壇の右翼派」
心の花 28巻5号, 6-10 (1924.5.1)
- * 「現代詩をいかに見るか—文壇四十家」[アンケート]
日本詩人 4巻5号, 106 (1924.5.1)
- * 「『櫻の園』を觀て(月曜附録)」
讀賣新聞(朝) 16928号, 5 (1924.5.5)

- * 『赤露見たまゝ記』(新ロシヤ・パンフレット 第一編) 東京 新潮社
1924.6.10 [2], 2, 166p 19 cm
内容: 序 (pp. [1-2])、目次 (pp.1-2)、我が眼に映せるロシヤの實情 (pp.2-66)、新興国を象る博覧會 (pp.67-111)、教育と文化施設の現状 (pp.112-129)、ロシヤ文壇印象記 (pp.130-151)、モスクヴァ劇壇の印象 (pp.152-165)
- (編) 『革命期の演劇と舞踊』(新ロシヤ・パンフレット 第二編) 東京 新潮社 1924.6.10 2, 2, 146p 図版 19 cm
内容: 凡例 (pp.1-2)、目次 (pp.1-2)、革命期のロシヤ演劇 (pp.2-19)、舞臺装置の革命 (pp.20-39)、新劇運動の三權威 (pp.40-50)、演劇革命の跡を顧みて (ルナチャールスキイ pp.51-78)、新經濟政策初期のモスクヴァ劇壇 (pp.79-94)、ロシヤ最近の舞踊 (pp.95-110) 舞踊劇の新しい収穫 (pp.111-117)、革命藝術と社會主義藝術 (トローツキイ pp.118-145)
- * 「チェーホフ廿年忌 (一) (學藝)」
東京朝日新聞 (朝) 13685 号, 6 (1924.7.8)
- * 「チェーホフ廿年忌 (二) (學藝)」
東京朝日新聞 (朝) 13686 号, 10 (1924.7.9)
- * 「チェーホフ廿年忌 (三・完) (學藝)」
東京朝日新聞 (朝) 13687 号, 6 (1924.7.10)
- (校閲) 『歐羅巴の滅亡』イリヤ・エレンブルグ作 椎名晟訳 昇曙夢校 東京 玄人社 1924.7.10 306p 19 cm 『トラスト D.E.』の翻訳
- * 「最近ロシヤの映畫劇 (學藝)」
秋田魁新報 11924 号, 4 (1924.8.12)
- (談) 「奄美大島の土俗と宗教とに就て」
沖縄教育 141 号, 2-15 (1924.10.1)
- * 「戀に恵まるゝジプシイの女 (戀と詩のローマンス生活物語)」
婦人俱樂部 5 卷 10 号, 77-81 (1924.10.1)
- (訳) 『トルストイとドストエーフスキイ』(世界名著叢書 第七編) メレジュコーフスキイ著 東京 東京堂 1924.10.5 12, 2, 546p 肖像 20

cm (注) 中扉に「1909年ペトログラード発行第四版より」とある。

奥付の譯者表示：昇直隆

内容：序 (昇曙夢著 pp.1-12)、目次 (pp.1-2)、緒論 (pp.3-20)、第一編 人としてのトルストイとドストエーフスキイ (その生活) (pp.21-254)、第二編 藝術家としてのトルストイとドストエーフスキイ (その創作) (pp.255-546)

* 「彼れの文壇生活－ゴーリキイの邦譯目錄」

東京朝日新聞 (朝) 13782号, 8 (1924.10.13)

(談) 「ブリューソフ氏逝く (月曜附録)」

讀賣新聞 (朝) 17089号, 4 (1924.10.13)

のち、一部分が「文章俱樂部」9年11号 (1924.11.1) に再録。

* 『新ロシヤ文學の曙光期』(新ロシヤ・パンフレット 第三編) 東京新潮社 1924.10.25 2, 3, 148p 図版 18cm

内容：凡例 (pp.1-2)、目次 (pp.1-3)、新ロシヤ文壇の右翼と左翼 (pp.2-27)、ロシヤ詩壇の昨日と今日と明日 (pp.28-104)、(一) 受難時代、(二) 象徴派と實感派 (昨日の藝術)、(三) 未來派とイマジニスト (今日の藝術)、(四) プロレタリア詩人と農民詩人 (明日の藝術)、革命期のロシヤ小説壇 (pp.105-127)、(一) 舊小説の最後、(二) 團體の崩壊、(三) 文體の崩壊、(四) ソヴェート文壇の現状、最近ロシヤ小説の印象 (pp.128-148)

* 「ブリューソフ逝く」文章俱樂部 9年11号, 13 (1924.11.1)

(監修) 「トルストイ全集 (全14巻)」

監修：内田魯庵、片上伸、昇曙夢

杜翁全集刊行會刊行

発行所：東京 春秋社内トルストイ全集刊行會

(注) 以下、全巻の発行年月日を掲げておく。

また、普及版 (全61冊 大正15～昭和3年) については省略する。

第一巻 大正13年11月15日 (著作者：神田豊穂)

第二巻 大正13年12月20日 (著作者：神田豊穂)

第三巻 大正14年08月20日 (著作者：神田豊穂)

- 第四卷 大正 14 年 01 月 20 日（著作者：神田豊穂）
第五卷 大正 14 年 03 月 20 日（著作者：神田豊穂）
第六卷 大正 14 年 04 月 20 日（著作者：神田豊穂）
第七卷 大正 14 年 05 月 20 日（著作者：神田豊穂）
第八卷 大正 14 年 02 月 20 日（著作者：神田豊穂）
第九卷 大正 14 年 11 月 10 日（著作者：神田豊穂）
第十卷 大正 14 年 07 月 20 日（著作者：神田豊穂）
第十一卷 大正 14 年 06 月 20 日（著作者：神田豊穂）
第十二卷 大正 14 年 09 月 20 日（著作者：神田豊穂）
第十三卷 大正 14 年 12 月 20 日（著作者：神田豊穂）
第十四卷 大正 14 年 10 月 20 日（著作者：神田豊穂）

- * 「回顧と豫想（十四）」〔アンケート〕
讀賣新聞（朝）17133号,4（1924.11.26）
- * 「序文に代ふ」（藤田親義著『琉球と鹿兒島』鹿兒島 藤田親義
1924.12.1 所収 p.19）
- * 「雪の神秘境西伯利亞ローマンス（冬の夜のローマンス）」
婦人俱樂部 5巻12号,41-48（1924.12.1）

大正 14（1925）年

- * 「余が自力で初めて収入を得た時と場所」〔アンケート〕
実業之日本 28巻1号,125（1925.1.1）
- 以下、全文を記す。
〔◇原稿料 文學者 昇曙夢
明治三十四五年の頃私がまだ正教神學校在學中、ゴーゴリの短編の
翻譯を、春陽堂發行の「新小説」に寄稿して、原稿料をもらったの
が、私の最初の収入であったと思ひます。〕
- * 「美術の露西亞に新しい産業派（一）（學藝）」
東京朝日新聞（朝）13892号,8（1925.1.31）
- * 「ソヴェート・ロシヤの活動寫眞 國營活動の設備とその作品（よみう
り文藝）（月曜附録）」

讀賣新聞（朝）17200号,4（1925.2.2）

- * 「美術の露西亞に新しい産業派（二）（學藝）」

東京朝日新聞（朝）13895号,6（1925.2.3）

- * 「美術の露西亞に新しい産業派（三・完）（學藝）」

東京朝日新聞（朝）13896号,6（1925.2.4）

（編）『新ロシア美術大觀』（新ロシア・パンフレット 第四編）東京 新潮社 1925.2.18 [3], 4, 52p 図版104p 18cm

（注）「日露國交の恢復を祝福して、特に本輯をこの歴史的事件の記念にさゝぐ」と巻頭の辞（昇曙夢）あり。

内容：凡例（pp. [1] - [3]）、目次（pp.1-4）一、革命前期（pp.3-11）（一、院體派の支配 二、移動展覽會派の運動 三、ロシア美術家協會の大集團 四、『ダイヤのジャック』一派の出現）二、革命後の美術界（pp.13-24）（一、未來派と立體派の専制時代 二、右派美術家の擡頭 三、純粹美術の破滅 四、産業主義の運動 五、左派の分裂と構成派の出現 六、革命と繪畫と民衆と 七、寫實主義への復歸）三、各團體の活動（pp.25-37）（一、舊『ダイヤのジャック』一派の活動 二、左翼美術家の創造 三、構成派の美術 四、その他の團體 五、共通の特質 六、彫塑に就いて）四、革命時代の版畫と裝畫（pp.39-42）五、新興工藝美術（pp.43-48）六、革命期の舞臺美術（pp.49-52）畫集目次 一、繪畫、圖案及び彫塑 二、版畫及び裝畫 三、工藝美術及び舞臺美術

- * 「ロシア文學雜考」 讀書人（第一出版協會）2卷3号,2-3（1925.3.1）

- * 「最近ロシア舞臺美術の發達」

中央美術 11卷3号,35-42（1925.3.1）

- * 「永久に求むる心—ロシアとロシア人に就ての考察」

文章俱樂部 10年3号,24-25（1925.3.1）

- * 「新裝の勞農ロシア（上）ソヴェート社會主義共和國聯邦組織の要點」

中外商業新報 14016号,3（1925.3.10）

- * 「新裝の勞農ロシア（下）ソヴェート社會主義共和國聯邦組織の要點」

中外商業新報 14017号,3（1925.3.11）

(監修) 『露西亞語獨修』 内藤三雄編 東京 自然社、崇文堂 1925.3.25

2, 4, 6, 564p 19 cm

内容：緒言－本獨修書、體裁、方針に就て（編者 pp.1-2）、凡例（pp.1-4）、目次（pp.1-6）、第一篇 發音、綴字（pp.1-54）、第二篇 譯讀（pp.55-262）、第三篇 文法（pp.263-522）、第四篇 會話（pp.523-564）

（注）のち、發行所は「東京 崇文堂」のみとなる。（1929.6.10 改訂四版）による。

- * 「ソヴェート・ロシヤのプロレタリア演劇運動（上）人生の演劇化（家庭・學藝）」 中外商業新報 14036号, 10 (1925.3.30)
完結後、「歌劇」62号 (1925.5.1) に再録。
- * 「ソヴェート・ロシヤのプロレタリア演劇運動（中）プロレタリア劇論戰（家庭・學藝）」 中外商業新報 14037号, 6 (1925.3.31)
- * 「露國に於けるプロレタリア劇創設の過程」
演劇新潮 2卷4号, 98-109 (1925.4.1)
（注）末尾に（ボリス・ソコロフ氏所論参照）とあり。
- * 「ソヴェート・ロシヤのプロレタリア演劇運動（下）民衆劇創設の宣言（家庭・學藝）」 中外商業新報 14038号, 6 (1925.4.1)
- * 「プロレタリア藝術に就いて」
読書人（第一出版協會）2卷4号, 22-25 (1925.4.1)
- * 「露西亞文藝思潮概論（露西亞文學講座）」
文藝講座（第一回配本）12号, 1-18 (1925.4.3)
内容：第一講 農奴解放を中心として
- * 「ロシヤ文藝思潮概論（露西亞文學講座）」
文藝講座（第一回配本）13号, 1-16 (1925.4.25)
内容：第二講 田園文明より都會文明へ
- * 「築地小劇場の「檢察官」を觀て（批判）」
演藝畫報 19年5号, 10-12 (1925.5.1)
- * 「新露西亞の演劇運動」
歌劇 62号, 2-7 (1925.5.1)

末尾に（中外商業新報所載）とあり。

（注）「中外商業新報」14036号－14038号（1925.3.30－4.1）所収の「ソヴェート・ロシアのプロレタリア演劇運動」を改題、再録。

* 「ロシアの劇壇と映畫界に新しい勝利の記録（一）（よみうり文藝）」
讀賣新聞（朝）17296号,4（1925.5.9）

* 「ロシアの劇壇と映畫界に新しい勝利の記録（二）（よみうり文藝）」
讀賣新聞（朝）17297号,4（1925.5.10）

* 「ロシアの劇壇と映畫界に新しい勝利の記録（三）（よみうり文藝）」
讀賣新聞（朝）17299号,4（1925.5.12）

* 「ロシアの劇壇と映畫界に新しい勝利の記録（四・完）（よみうり文藝）」
讀賣新聞（朝）17300号,4（1925.5.13）

（編）『プロレタリア劇と映畫及音樂』（新ロシア・パンフレット 第五編）

東京 新潮社 1925.6.6 2,5,140p 函版 18cm

内容：凡例（pp.1-2）目次（pp.1-5）プロレタリア演劇運動（pp.2-56）（一、序論 二、民衆劇創設の試みと其の實蹟 三、革命ヒロイック劇創設の試みと其の實蹟 四、曲藝喜劇の試み 五、「アティスト」座の出現と反宗教劇 六、メイエルフォリドの近業）ソヴェート・ロシアの映畫（p.57-126）（一、序説 ソヴェート映畫の現状 二、國營活動とその作品 三、プロレタリア活動とその作品 四、藝術コレクチャーヴ「ルーシ」とその作品 五、グルジャ國營活動とその作品 六、北西活動とその作品 七、アゼルバイジャン活動とその作品 八、その他の映畫會社 九、外國に於けるロシア映畫團 十、結論 ソヴェート映畫の將來）ソヴェート・ロシアの音樂（pp.127-140）

* 「白夜の情趣（世界の驚異）」

太陽 31卷8号,287-291（1925.6.15）

（訳）『世界短篇小説大系 露西亞篇 下巻』東京 近代社 1925.6.30

29,3,837p 23cm

内容：露西亞近代及勞農作家傑作集 かくれんぼ（ソログープ作 pp.1-21）、深淵（アンドリェーフ作 pp.113-135）、夜の叫び（バリモ

ント作 pp.205-222)、一刹那(アルヒーポフ作 pp.267-289)、静かな曙(ザイツェフ作 pp.323-340)、三奇人(アレキセイ・トルストイ作 pp.351-371)、白夜(カアメンスキイ作 pp.429-453)

- * 「アクメイズムとこの派の詩人」
日本詩人 5巻7号, 2-8 (1925.7.1)
- * 「ロシヤ人の生活気分」
文藝春秋 3年7号, 16-18 (1925.7.1)
- * 「シベリヤの美(一日一文)」
大阪朝日新聞(朝) 15662号, 1 (1925.7.6)
のち、『一日一文』(大阪 朝日新聞社 1926.1.20)に収録。
- * 「ロシヤ批評家の観た日本の現代小説-エリシエーエフ君の佛語譯に就て」
東京朝日新聞(朝) 14061号, 10 (1925.7.19)
- * 「この不景氣をどう観るか? (八)(よみうり文藝)」[アンケート]
讀賣新聞(朝) 17373号, 4 (1925.7.25)
- * 「夏のロシヤと其行樂」
婦人畫報 239号, 50-54 (1925.8.1)
内容: 野外生活、夏の公園、夜の歡樂、ピクニック、別莊遊び、シヤンタン
- (訳) 【マルコとワシカ(ろしあお伽嘶)】アファナーシェフ著 東京 大倉書店 1925.9.3 函版 3.2, 242p 19cm
内容: はしがき(昇曙夢著 pp.1-3)、目次(pp.1-2)、マルコとワシカ(pp.1-36)、馬鹿息子(pp.37-45)、百姓と王女(pp.46-71)、びっくりだめし(pp.72-78)、熊の王子(pp.79-109)、一寸法師(pp.110-117)、二つの運命(pp.118-131)、かくれんぼ(pp.132-144)、狐と狼(pp.145-149)、怪獸退治(pp.150-154)、百姓の謎(pp.155-160)、羊飼の娘(pp.161-171)、霜の小父さん(pp.172-191)、意地悪女房(pp.192-203)、黄金の手籠(pp.204-208)、不思議なお土産(pp.209-218)、ダニーロと白鳥姫(pp.219-242)
- * 「革命後に於けるロシヤ文學(一)(學藝)」
秋田魁新報 12314号, 4 (1925.9.6)

- * 「革命後に於けるロシア文學（二）（學藝）」
秋田魁新報 12316号, 4 (1925.9.8)
- * 「革命後に於けるロシア文學（三）（學藝）」
秋田魁新報 12317号, 4 (1925.9.9)
- * 「革命後に於けるロシア文學（四）（學藝）」
秋田魁新報 12319号, 4 (1925.9.11)
- * 「革命後に於けるロシア文學（五）（學藝）」
秋田魁新報 12320号, 4 (1925.9.12)
- * 「革命後に於けるロシア文學（六・完）（學藝）」
秋田魁新報 12321号, 4 (1925.9.13)
- * 「露西亞文藝思潮概論（露西亞文學講座）」
文藝講座（第二回配本）10号, 1-18 (1925.9.21)
内容：第一講 農奴解放を中心として
- * 「勞農露國に於ける新宗教運動」
東亞の光 20卷10号, 48-56 (1925.10.1)
- (訳) 『ドストエーフスキイ全集 (2)』東京 新潮社 1925.10.5 7, 2, 728p
19 cm
(注) 卷頭に故ニコライ大主教への献辞あり。1918.6.20刊の改装版
内容：序（昇曙夢著 pp.1-7）、凡例（pp.1-2）、虐げられし人々（pp.1-728）
- * 「ロシア文藝思潮概論（露西亞文學講座）」
文藝講座（第二回配本）11号, 1-16 (1925.10.16)
内容：第二講 田園文明より都會文明へ
- * 「ロシア文藝思潮概論（露西亞文學講座）」
文藝講座（第二回配本）14号, 1-18 (1925.11.9)
内容：第三講 近代都會生活と都會文學
- (訳) 『近代劇大系 第十五卷 露西亞篇 [3]』東京 近代劇大系刊行会
1925.11.13 17, 3, 750p 函版2枚 20 cm
内容：我等が生活の日（四幕）（アンドレーエフ作 pp.119-245）、
どん底（四幕）（ゴーリキイ作 pp.247-399）、死の勝利（三幕）（ソ

ロゲーブ作 pp.401-460)

- (編) 『第二新ロシア美術大観 亡命美術家作品集』(新ロシア・パンフレット 第六編) 東京 新潮社 1925.12.13 2, 4, 32p 図版 126p 19 cm
内容: 序言 (pp.1-2)、本文目次 (pp.1-4)、第一部 繪畫・装畫・彫塑、第二部 舞踊・名優舞臺姿、第三部 木版・ポスター・工藝・藝術寫真、勝利と魅惑の藝術 一、亡命美術家とその作品 (pp.2-17) 二、ロシア舞踊と舞踊家とに就いて (pp.18-29) 三、畫集第三部に就いて (pp.30-31)
- (訳) 『世界短篇小説大系 露西亞篇 上巻』東京 近代社 1925.12.20
14, 2, 873p 23 cm
内容: 露西亞歴代名作集 吹雪 (プーシュキン作 pp.29-46)、戀の凱歌 (ツルゲエネフ作 pp.223-253)、偶然 (レフ・トルストイ作 pp.525-532)、カフカスの囚人 (レフ・トルストイ作 pp.533-576)、箱の中の男 (チェーホフ作 pp.829-849)、窺扶斯 (チェーホフ作 pp.851-862)

大正 15 (1926) 年・昭和元年

- (談) 「新ロシア文藝主潮 左翼戦線と構成派 (一) (学藝)」
旭川新聞 (朝) 2334 号, 6 (1926.1.10)
- (談) 「新ロシア文藝主潮 左翼戦線と構成派 (二) (学藝)」
旭川新聞 (朝) 2335 号, 6 (1926.1.12)
- (談) 「新ロシア文藝主潮 左翼戦線と構成派 (三) (学藝)」
旭川新聞 (朝) 2336 号, 6 (1926.1.13)
- (談) 「新ロシア文藝主潮 左翼戦線と構成派 (四) (学藝)」
旭川新聞 (朝) 2337 号, 6 (1926.1.14)
- (談) 「新ロシア文藝主潮 左翼戦線と構成派 (五) (学藝)」
旭川新聞 (朝) 2338 号, 6 (1926.1.15)
- (談) 「新ロシア文藝主潮 左翼戦線と構成派 (六) (学藝)」
旭川新聞 (朝) 2339 号, 6 (1926.1.16)
- (談) 「新ロシア文藝主潮 左翼戦線と構成派 (七) (学藝)」

- 旭川新聞 (朝) 2340号, 4 (1926.1.17)
- (談) 「新ロシア文藝主潮 左翼戦線と構成派 (八・完) (学藝)」
旭川新聞 (朝) 2342号, 6 (1926.1.19)
- * 「シベリヤの美」(『一日一文』大阪 朝日新聞社 1926.1.20 所収
pp.220-224)
- * 「諸名士の雑誌新年號觀」[アンケート]
不同調 2巻2号, 58 (1926.2.1)
- * 「ゴゴリの作品に現はれた妖怪の種々相 (妖怪研究)」
文藝市場 2巻3号, 75-78 (1926.3.1)
- (談) 「來朝の赤露文壇の双壁 ビリニヤークとイワーノフ (上) (よみうり文藝)」
讀賣新聞 (朝) 17606号, 4 (1926.3.17)
- (談) 「來朝の赤露文壇の双壁 ビリニヤークとイワーノフ (下) (よみうり文藝)」
讀賣新聞 (朝) 17607号, 4 (1926.3.18)
- * 「構成派の藝術 (この派の主なる作品に就いて)」
新刊圖書雑誌月報 (東京堂) 13巻4号, 1-4
(1926.4.1)
- * 「近く來朝の露國名歌手 イルマ・ヤウンゼン嬢 (よみうり文藝)」
讀賣新聞 (朝) 17631号, 4 (1926.4.11)
- (訳) 「プロレタリア詩抄」文藝市場 2巻5号, 42-45 (1926.5.1)
内容: 新らしき同志に (サモプイトニク)、古きロシヤ (アレクサン
ドローフスキイ)、血と雪 (キリーロフ)、地平線 (カージン)、俺達
は鐵から生長しよう - 散文詩 (ガスチョフ)
- * 「私の一 日 三十一家」[アンケート]
文章俱樂部 11年5号, 79 (1926.5.1)
- * 「天才ピアニスト カヴァリョフ氏と語る (上) (よみうり文藝)」
讀賣新聞 (朝) 17662号, 4 (1926.5.12)
- * 「天才ピアニスト カヴァリョフ氏と語る (下) (よみうり文藝)」
讀賣新聞 (朝) 17663号, 4 (1926.5.13)
- * 「晴雨計 (よみうり文藝)」
讀賣新聞 (朝) 17671号, 4 (1926.5.21)

- * 「奄美民謡八千代節（紹介）」
文藝市場 2巻6号, 47 (1926.6.1)
- * 「最近ロシヤ文壇の問題」
文藝時報 14号, 1 (1926.6.10)
- * 「革命劇壇の驍將メイエルフォルド（劇作家研究 その一）」
演劇新潮（文藝春秋社）1巻4号, 86-92 (1926.7.1)
- * 「首里の一夜（琉球の古典藝術に接して）」
不同調 3巻1号, 96-100 (1926.7.1)
- * 『無産階級文學の理論と實相』（新ロシヤ・パンフレット 第七編）東京 新潮社 1926.7.7 4, 2, 2, 160p 函版 18cm
内容：プロレタリア文學について－昇曙夢氏の新著に序す（ボリス・ピリニャーク著 pp.1-4）、はしがき（pp.1-2）、目次（pp.1-2）
一、プロレタリア文學の諸問題（pp.3-17）二、プロレタリア文學の發達（pp.18-37）三、プロレタリア文學の特質（pp.38-66）四、プロレタリア詩人と農民詩人（pp.67-76）五、プロレタリア文學の藝術的價値（pp.77-90）六、プロレタリア詩人とその作品（pp.91-145）
七、プロレタリア獨裁と文化問題（全ソヴェト聯邦プロレタリア文學者協會大會決議）（pp.146-160）
- * 「黒龍江を溯る」 文化生活 4巻9号, 35-40 (1926.9.1)
- * 「ロシヤ文學に現れたる變態性慾の種々相」
變態心理 18巻3号（102号）, 315-322 (1926.9.1)
- （共訳）『世界文豪代表作全集 XI巻』山内封介共訳 東京 世界文豪代表作全集刊行會 1926.9.15 4, [1], 576p 肖像 23cm
内容：序（昇曙夢 pp.1-4）、目次（p. [1]）、ルーヂン（ツルゲーネフ作 pp.1-229）、父と子（ツルゲーネフ作 pp.231-568）、『ルーヂン』及び『父と子』に就て（山内封介 pp.569-576）
- * 「露西亞文藝思潮概論（露西亞文學講座）」
文藝講座（第三回配本）10号, 1-18 (1926.9.20)
内容：第一講 農奴解放を中心として 一、ロシヤ文學と西歐文學 二、ロシヤ文學の支配觀念 三、ロシヤ人道主義の黎明期 四、ス

ラブ主義と西歐主義 五、社會的傾向 六、小説『誰の罪』と婦人解放問題 七、理想主義より現實主義へ 八、虛無主義時代 九、小説『何を爲すべきか』と新人の思想 十、『民衆の中へ』の運動 十一、幻滅期

* 「現代ロシヤ文學の主流」

日本法政新誌 23 卷 10 号, 64-73 (1926.10.1)

* 「ロシヤ文藝思潮概論 (露西亞文學講座)」

文藝講座 (第三回配本) 11 号, 1-16 (1926.10.25)

内容：第二講 田園文明より都會文明へ 一、田園文明の挽歌 二、新舊時代の「峠」 三、ロシヤ・マルクス主義の意義 四、ゴーリキイ 五、ウエレサーエフ 六、社會主義化の過程 七、デカダンの出現 八、象徴主義の運動 九、近代文學と近代精神

(未見)(監修)『小説 苦惱の中を行く 上巻』(新興露西亞藝術叢書 I) アレクセイ・トルストイ著 富永順太郎訳 東京 文化學會出版部 1926.10.10 2, 6, 362p 19 cm

* 「發賣禁止の思ひ出 (近代筆禍文献號)」

文藝市場 2 卷 11 号, 4-6 (1926.11.1)

のち、小田切秀雄編『發禁作品集』東京 北辰堂 1956.6.30 に収録

* 「私の此頃の生活」[アンケート]

文章俱樂部 11 年 11 号, 122 (1926.11.1)

* 「ロシヤ文藝思潮概論 (露西亞文學講座)」

文藝講座 (第三回配本) 14 号, 1-18 (1926.11.25)

内容：第三講 近代都會生活と都會文學 一、都會生活の發達 二、近代都人の心理 三、都會詩人と印象主義 四、都會作家としてのアンドレーエフ 五、パリモントの刹那主義 六、ブロークの都會讚美 七、ソログーブと新傳説の創造

* 「琉球民族の面目」 南嶋 (沖縄縣海外協會) 2 卷 1 号, 44 (1926.12.15)